
【長野市市民協働サポートセンター】
令和元年度運営報告

令和 2 年 3 月

特定非営利活動法人 長野県NPOセンター

目次

総 括（令和元年度を振り返って）

令和元年度事業報告

（1）情報の収集・提供業務.....	1
（2）市民公益活動団体、地縁組織、企業等を対象とした支援業務.....	4
（3）市民公益活動の促進を図るためのその他の事業など	15
（4）施設管理業務.....	21

【総括】

長野市市民協働サポートセンター

令和元年度を振り返って

センターは『市民の力を信じ、ひとりひとりがローカルヒーローに』をミッションとし、NPO・市民・企業・行政・起業家など多様な主体が集う場を提供してきた。今年度はさらに、「参加」をキーワードに、これまでセンターを知らなかった層、特に個人にはたらしかけ、それぞれが役割や出番を得て市民活動に参画するための仕掛けをした。

主軸事業である「NPOカフェまんまる」は、多年代や多職種が地域の課題を真ん中にして語り合い・学び合う場となっている。特に今年度は、シニア世代のスタッフが中心となって退職者世代の男性を集めた交流会は定員を上回る参加があった。7月と2月に開催した「地域まんまる」では、それぞれ70人超、40人超の参加があった。日頃から訪問などで関係者と地域の課題について情報交換をしたり、全国の中間支援センターとの交流から社会の動きを把握してきたことが成果として現れたと感じる。

一方個人向けに数多く開催したサロンは、居場所としての役割もあり、繰り返し参加する「まんまる応援団」ができた。また、「NPOカフェまんまる」から生まれた「ゆるいおっさんの会」もサロンを継続、今後サロンをステップにして活動を生み出せるようエンパワメントしていく。

2年目となった、ながの協働ねっと事業「地域まるごとキャンパス」や、長野県NPOセンター主催の若者事業「ユースリーチ」でつながった若者たちが、頻繁にセンターを訪れ、まんまるテーブルで世代を超えた出会いも多く生まれた。

10月に起きた東日本台風災害の支援活動では、社会福祉協議会をはじめとする市内のさまざまな団体と協働し、これまで培ってきたコーディネーション力を発揮することができた。しかし、センター本来の事業として位置づけられた活動ではなく、今後大規模な災害が発生した際にセンターが担う役割の整理と位置づけが必要であると感じた。

そのほかでは、相談や関係団体プロジェクトへの参加件数が増加している。今後は、これまで以上に積極的に人を呼び込み、地域に足を運び、団体や人材の発掘・サポート・コーディネートに力を入れるとともに、多様な主体が自らコーディネーターとなり、「協働」を推進できるようにしていきたい。

長野市市民協働サポートセンター

センター長 阿部 今日子

令和元年度事業報告

(1) 情報の収集・提供業務

<事業内容>

- ① 市民公益活動団体に関する情報の収集及び提供
 - ア センター機関誌「まんまる」の発行・配布（年4回）及びバックナンバーのホームページ公開
 - イ 市民公益活動団体及び関係機関が発行する機関紙の収集及び管理
 - ウ ホームページ、フェイスブックなどを活用した情報発信
 - エ 市民公益活動団体の情報ファイルの追加・整理
 - オ 登録した市民公益活動団体のデータベース化（電子・紙ベース）
 - カ その他、人材の紹介、助成金等活動資金、法務、財務会計、税務その他市民公益活動団体の運営のノウハウに関する情報の収集及び提供
- ② 情報掲示板、関係図書の管理（各団体のチラシ、ポスター等の提示物の受付等）
- ③ ホームページ、フェイスブックの維持管理
- ④ 市民公益活動団体、ボランティア等に関する情報提供、相談対応、案内
- ⑤ 報道機関へのイベント情報提供
 - ア 長野市民新聞「市民とNPOのひろば」への取材記事、イベント情報提供
 - イ FMぜんこうじ「長野市広報ふれあいガイド」へのNPO団体出演のコーディネート
- ⑥ 市内各種団体の実態調査
- ⑦ フリースポット管理、問い合わせ対応

<事業目標>

- ・ 長野市内のNPO情報を収集、整理、蓄積、発信
- ・ 情報の収集・発信に力を入れることで団体間の情報共有の充実を図る
- ・ ホームページを活用した情報発信の充実
- ・ SNS（フェイスブック）を活用した情報の受発信を充実させ集客を図る
- ・ センターとしての相談・コーディネート実績を重ね、センター周知につなげる

<事業実績>

- ① 取材訪問、窓口対応、マスコミなどを通し、あらゆる団体情報を収集、提供
 - ア センター機関誌「まんまる」年4回発行（4月／7月／10月／1月）
発行部数各号 1,700部／配布件数 1,914件 平均 479件
※ホームページでバックナンバーを公開
 - イ 関係機関が発行する機関紙の受付件数 195件（2019/4～2020/3）
 - ウ ホームページ・フェイスブックについては随時更新
※ホームページを活用しての情報発信件数 604件

／アクセス件数 50,814 件 (2019/4～2020/3)

※フェイスブックを利用しての情報発信件数 828 件

／アクセス件数 140,638 件 (2019/4～2020/3)

エ 市民公益団体のデータベース化

オ 助成金情報の提供

ホームページを活用しての情報発信件数 79 件 (2019/4～2020/3)

② 情報掲示板、関係図書の管理

ア チラシ、広報紙の受付件数 チラシ 648 件 (種類) 【前年比 115.3%】

イ 図書貸出件数 1 件

③ ホームページはフェイスブックと連携させながら有効活用

④ 窓口相談件数 105 件／電話及びメール相談件数 125 件／訪問相談件数 19 件

【合計 249 件 (前年比 154.6%)】

窓口情報提供件数 2,133 件／電話及びメール情報提供件数 2,342 件／訪問情報提供件数 1 件

【合計 4,476 件 (前年比 117.3%)】

⑤ 市民新聞「市民とNPOのひろば」へのイベント取材記事、イベント情報提供 (毎月第1火曜日掲載) 及び市民新聞「市民とNPOのひろば」編集委員会に毎月参加

⑥ FMぜんこうじ「長野市広報ふれあいガイド」へのNPO団体出演コーディネート

【出演団体】 (出演依頼／日程調整／内容の打合せ等)

4 月／長野みらい塾

10 月／エコライフ・プロジェクト信州

5 月／フードバンク信州

11 月／ITサポート 銀のかささぎ

6 月／ブルースカイ

12 月／子ども・家庭支援センターHUG

7 月／ながの災害・防災ネットワークみらい

1 月／コミュニティマネジメントネットワーク長野

8 月／被爆体験を聴く会

2 月／若穂民話の会

9 月／まちの縁側育みプロジェクトながの

3 月／えしかるもざいく・FourthPlace

⑦ 訪問件数 123 件 (前年比 87.8%)

市内各種団体にはイベント取材等に合わせて訪問、住民自治協議会へのヒアリングも実施

⑧ フリースポット管理と、それに伴う問い合わせに対応



市民協働サポートセンターホームページ



フェイスブック【NPOカフェまんまる】

NPOカフェ **まる**



春号：配布 473 件
特集
SDGs と NPO



秋号：配布 482 件
特集
守れ！子どもの心♡権利♡いのち



夏号：配布 482 件
特集
移住したい県で 1 位
移住者から見た長野は？



冬号：配布 477 件
特集
台風 19 号災害
長期的な支援に向けて
寄付というカタチ



■長野市民新聞「市民とNPOのひろば」
毎月第一火曜日 年 12 回掲載
(イベント数 216 件・取材 32 件)
■リレーコラム
毎月第三土曜日 年 12 回掲載
(コラム 12 件・イベント数 24 件)



チラシ閲覧・活動掲示コーナー（もんぜんぷら座3階）



＜評価と課題＞

情報の収集・提供業務では、これまでと同様にＩＴと紙ベースを活用し、センターや主催事業への集客等成果につなげた。

ＩＴでは、ホームページやフェイスブックの媒体を活用し、新鮮な情報の発信を継続。ホームページへのアクセス件数は前年比 100.0%の 50,814 件（前年 50,805 件）、フェイスブックページへの年間アクセス件数は 140,638 件（昨年 105,052 件）、前年比 133.9%となった。フェイスブックについては、災害のあった 10 月、ボランティア情報などの発信に力を入れたことから、ふだんの 3 倍近いアクセスがあり、即時性のある情報については効果があった。ただし、フェイスブックを多くの人が活用するようになり、情報が混在し、目に留まりにくくなっていることは昨年度からの課題となっている。そのため、今年度は事業の集客等はできるだけピンポイントに個別でのお誘いや、メールワイズの一斉メールなど「あなたに向けた発信です」という形での広報を心がけた。令和 2 年度は、すでに活用している Twitter の有効活用と Instagram の新たな立ち上げも含め検討、実施する予定。さらに、昨年度から、長野県の NPO ポータルサイト「ナガクル」への自動情報掲載を行っており、長野市の取り組みを広く県内の団体にも見てもらう機会となっている。

紙ベースでは、機関紙「まんまる」（年 4 回）、長野市民新聞「市民と NPO のひろば」誌面（年 12 回）を通してセンター情報はもちろん、社会の課題や NPO の活動状況を広く発信。特に機関誌まんまるは毎号その時々 of 社会の動きをとらえた特集を組んでおり、特集に関連する機関へ配布するなど配布件数を増やし（前年比 105.6%）、特に人気のあったものは残数が少なくなっている状況。送付している団体から、講座などについての問い合わせ・申し込みが来ている。

また、センターのレイアウトを一新。あまり動きのなかった図書をセンター内に設置し、チラシラックを会議室 304 の壁際に移動。センターの中が良く見えるようになり、チラシを見ながらセンター内に入ってくる人もあり、スタッフからの声掛けもしやすくなった。地区や団体の取材・訪問の際に積極的にチラシなどをもらってセンターに設置、受け取り件数も前年比 115.3%と増えている。

市内各種団体への訪問件数は、前年比 87.9%の 123 件で 17 件減少した。スタッフが入れ替わった 4 月、台風 19 号災害の影響を受けた 10 月、11 月、新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動自粛となった 3 月、この 4 カ月で訪問件数が対前年 26 件減少したことが要因とみられる。他の月では、先方からの依頼による訪問（主に取材）も多く、団体のニーズ把握にもつながった。今後も積極的に地域に出向きたい。

(2) 市民公益活動団体、地縁組織、企業等を対象とした支援業務

<事業内容>

① ながのまちづくり活動支援事業に係る支援業務

- ア 応募事前相談対応
- イ 補助金交付団体からの運営等に関する相談対応
- ウ 補助金交付団体への協力や取材
- エ まちづくり活動中間報告会への参画

② ネットワークの構築

- ア 交流事業の企画・実践・支援など

③ 相談及び調整

- ア NPO法人設立・運営に関すること
- イ 市民公益活動の実践に関すること
- ウ 個別のニーズに関すること 等

④ 団体・個人の育成

- ア 各種講座の開催

NPO（法人）の初歩的知識に関する講座（初歩講座）、NPO（法人）等の会計処理、資金調達に関する講座、情報発信（マスコミ向け、ホームページ等）に関する講座（ステップアップ講座）など

⑤ その他

市民公益活動団体主催イベントへの協力や取材など

<事業目標>

- ・ ながのまちづくり活動支援事業補助金交付団体へ、積極的な支援を行う
- ・ NPOカフェまんまる、地域まんまる、まちむら交流会など、それぞれのイベントの特徴を生かしながら、参加対象者の拡大を図り、人と人とのつながりを広げていく
- ・ 参加者のニーズに沿った講座を企画していく
- ・ 行政、地域、企業との人的ネットワークの形成

<事業実績>

- ① ア 平成31年度まちづくり活動支援事業の応募事前相談を実施（相談件数 3件）
イ 平成31年度まちづくり活動中間報告会へ出席（11月）
- ② ア 交流会の企画・実践・支援

《NPOカフェまんまる》

	タイトル		参加人数
	期 日	会 場	
	企画団体		
1	居場所×担い手＝何か生まれる？大妄想会議		20
	5月17日(金)	みらいく保育園3階 地域交流スペース	
2	定年後何をする？		24
	5月25日(土)	もんぜんぶら座 303 会議室	
	男の脳活倶楽部		
3	長野のすみっこから革命をおこそう！		15
	6月1日(土)	市民協働サポートセンター	
	長野県共同募金会		
4	地域まんまる in 小田切 「車なきやどうやって暮らしていくだえ？」		73
	7月17日(水)	長野市小田切交流センター	
	小田切地区住民自治協議会		
5	第2回手提げ袋ワークショップ		延期 台風19号 災害のため
	10月12日(土)	もんぜんぶら座 701 会議室	
	株式会社水島紙店手提屋		
6	「みんな、情報発信どうしてる？」		8
	11月2日(土)	市民協働サポートセンター	
	NPO法人Mam's Style、ソーシャルデザインセンター		
7	「わたしたちの美術館を考えよう！」		14
	11月13日(水)	こども広場 じゃん・けん・ぽん	
	長野県信濃美術館、長野県		
8	地域まんまる in 大豆島 「介護している人の声を聴きたい！」		44
	2月7日(金)	大豆島総合市民センター	
	大豆島地区住民自治協議会		
9	「認知症サポーター養成講座」		17
	2月18日(火)	市民協働サポートセンター	
10	「美術館を考える」		中止 新型コロナウイルス 感染防止対策
	3月1日(日)	市民協働サポートセンター	
	長野県信濃美術館、長野県		
11	第2回手提げ袋ワークショップ		延期 新型コロナウイルス 感染防止対策
	3月14日(土)	市民協働サポートセンター	
	株式会社水島紙店手提屋		
合計			195

《食・農・山村体験とまちむら交流会》 Oooka 森の学び舎との共催

	タイトル		参加人数
	期 日	会 場	
1	親子1日山村留学体験 事前研修会 ①		12
	8月10日(土)	大岡地区	
2	100の大岡 秋の森 大ぼうけん 親子自然体験 ②		73
	11月9日(土)	大岡地区	
3	100の大岡 冬の森 大冒険 親子自然体験 ③		65
	2月1日(土)	大岡地区	
合計			150

《コミュニティブリッジ》

	テーマ		参加人数
	期 日	会 場	
	5月20日(月)	市民協働サポートセンター	7
合計			7

＜参画団体＞

長野県県民文化部県民協働課（認定NPO法人長野県みらい基金）

長野県社会福祉協議会

公益財団法人長野県長寿社会開発センター

長野市ボランティアセンター

株式会社CREEKS

《まんまるサロン》

	テーマ		参加人数
	期 日	会 場	
1	機関誌まんまる(4/1号)発送作業		9
	3月30日(土)	市民協働サポートセンター	
2	機関誌まんまる(7/1号)発送作業		5
	6月29日(土)	市民協働サポートセンター	
3	ボランティアサロン		1
	7月23日(火)	市民協働サポートセンター	
4	おじさんまんまる		6
	7月27日(土)	市民協働サポートセンター	
5	筆文字を書いてみよう		10
	8月24日(土)	市民協働サポートセンター	

	テーマ		参加人数
	期 日	会 場	
7	機関誌まんまる(10/1号)発送作業		5
	9月29日(日)	市民協働サポートセンター	
8	おじさんまんまる		10
	10月12日(土)	長野県味噌工業協同組合連合会会議室	
9	ボランティアサロン		5
	10月19日(土)	市民協働サポートセンター	
10	ボランティアサロン		2
	10月20日(日)	市民協働サポートセンター	
11	手提げ袋ミニワークショップ		14
	11月14日(木)	にっこりひろば	
12	おじさんまんまる		9
	12月7日(土)	市民協働サポートセンター	
13	機関誌まんまる(1/1号)発送作業		14
	12月24日(火)	市民協働サポートセンター	
14	おじさんまんまる		10
	1月25日(土)	市民協働サポートセンター	
15	ボランティアサロン		8
	1月20日(月)	市民協働サポートセンター	
16	ボランティアサロン		4
	1月28日(火)	市民協働サポートセンター	
17	ボランティアサロン		2
	2月10日(月)	市民協働サポートセンター	
18	ボランティアサロン		5
	2月25日(火)	市民協働サポートセンター	
19	ボランティアサロン		6
	3月11日(水)	市民協働サポートセンター	
20	ボランティアサロン		8
	3月24日(火)	市民協働サポートセンター	
21	機関誌まんまる(4/1号)発送作業		8
	3月28日(土)	市民協働サポートセンター	
22	おじさんまんまる		7
	3月28日(土)	市民協働サポートセンター	
合計			149



地域まんまる in 小田切 (7月)
「車なきゃどうやって暮らしていくだえ？」



NPOカフェまんまる (5月)
「定年後は 何をする？」



まちむら交流会 (11月) 大岡「秋の森 大ぼうけん」



NPOカフェまんまる (11月) わたしたちの美術館を考えよう



まんまるサロン (8月) 筆文字を書いてみよう



ボランティアサロン (12月) 古紙で紙バックづくり

③ 相談及び調整

相談件数 249 件 (窓口 105 件／電話等 125 件／訪問 19 件) ／ (前年比 154.7%)

④ 各種講座の開催

《初歩講座》

ア NPO（法人）の初歩的知識に関する講座

	日時	参加人数
1	4月 27 日(土)13:30～16:00	7
2	6月 26 日(水)18:30～21:00	1
3	8月 31 日(土)13:30～16:00 ※参加申込みがなかったため中止	0
4	10月 30 日(土)18:30～21:00 ※参加申込みがなかったため中止	0
5	12月 11 日(水)13:30～16:00	7
6	2月 26 日(水)18:30～21:00	3
合計		18

《NPOステップアップ講座》

イ NPO（法人）などの事業企画に関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	イベントーズミーティング「引きつける“イベント”って どんなん？」		11
	12月13日(金)18:00～20:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	ファシリテーション・ラボ信州 河合 宗寛氏		
合計			11

ウ 資金調達・財源成長に関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	組織評価＆助成金セミナー		28
	9月16日(月)15:00～18:00	もんぜんぷら座 304 会議室	
	一般社団法人非営利組織評価センター 山田 康久氏		
2	助成金プログラム説明会＆助成金活用セミナー		22
	10月24日(木)18:00～20:30	もんぜんぷら座 304 会議室	
	人と組織と地球のための国際研究所 代表 川北 秀人氏		
合計			50

エ 人材確保育成・組織成長に関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	長野県の未来は協働でつくる		36
	10月24日(木)13:30～17:00	もんぜんぶら座 304 会議室	
	人と組織と地球のための国際研究所 代表 川北 秀人氏		
2	持続可能な地域を目指す小規模多機能自治		延期
	10月25日(金)13:00～16:15	ホクト文化ホール小ホール	台風19号
	人と組織と地球のための国際研究所 代表 川北 秀人氏		災害のため
3	コミュニティマネジメント いろはのろ		39
	1月18日(土)15:00～18:00	長野市生涯学習センター第1会議室	
	NPO法人CRファクトリー代表理事 呉 哲煥氏		
合計			75

オ NPO（法人）などの会計処理、労務管理、リスク管理などに関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	会計のいろはシリーズ／会計事務お悩み相談会		1
	9月 21 日(土)13:00～16:00	市民協働サポートセンター	
	NPO法人長野県 NPO センター 轟 富美子		
2	会計のいろはシリーズ／会計事務お悩み相談会		3
	3月 14 日(土)13:30～16:00	もんぜんぶら座 303 会議室	
	税理士法人成迫会計事務所 北原 正明氏		
合計			4

カ 広報に関する講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	広報のいろはシリーズ／「ペライチ」でホームページを作ってみよう！		10
	5月 19 日(日)13:30～16:00	市民協働サポートセンター	
	株式会社ペライチ 大原康弘氏		

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
2	広報のいろはシリーズ／「Googleマイビジネス」を使ってみよう！		10
	6月 8日(土)13:30～16:00	市民協働サポートセンター	
	ソーシャルデザインセンター 岡田義彦氏		
3	広報のいろはシリーズ／正しいチラシの作り方＆写真の撮り方		22
	7月 20日(土)13:30～16:00	もんぜんぷら座 601 会議室	
	ソーシャルデザインセンター 寺澤順子氏		
合計			42

キ 長野県NPOセンターとの共催講座

	タイトル／内容		参加人数
	日時	会場	
	講師		
1	組織評価＆助成金セミナー(再掲)		28
	9月 16 日(月)15:00～18:00	もんぜんぷら座 304 会議室	
	一般社団法人非営利組織評価センター 山田 康久氏		
2	台風 19 号災害 NPO/ボランティア団体、企業などによる被災者応援会議		144
	10 月 28 日(月)18:00～20:00	もんぜんぷら座ホール	
	NPO法人長野県NPOセンター事務局長 山室 秀俊		
	合計		172



NPO初歩講座(12月)



NPOステップアップ講座(10月)「長野県の未来は協働でつくる」



NPOステップアップ講座（12月）「イベントターズティング」



NPOステップアップ講座(1月)
「コミュニティマネジメントいろはのろ」



NPOステップアップ講座（7月）広報のいろは
「正しいチラシの作り方」



台風19号災害 NPO・ボランティア団体・企業など
による被災者応援会議

＜評価と課題＞

ながのまちづくり活動支援事業に関わる支援業務としては、応募事前相談から団体と関わることで関係性を構築し、取材活動や広報を中心に年間を通したサポートを行った。

交流事業では、昨年度まで実施していた「ポップアップ知恵出し会議」を「NPOカフェまんまる」に統合し、スタッフが独自の視点で団体・企業・行政施設と協働で企画した。また、それが縁となって複数団体をコーディネートして活動の現場に新たな活動を作り出すなど成果が生まれている。まちむら交流会は、昨年度に引き続き大岡地区の団体と企画。新しくNPO法人化した「Oooka 森の学び舎」の法人設立前の試験的な活動をサポートする形で行った。年度末に法人化し、その後も運営や広報についての相談に乗っている。

相談件数は、前年比154.7%の249件。スタッフそれぞれのスキルを活かした対応や、積極的に団体へ足を運んだ成果と捉え、今後もさまざまな団体との関係強化を図っていきたい。相談内容では、10月に起きた東日本台風の災害に関するものがかなりの数あり、それも県外からもあるなど支援したい気持ちの受け止め窓口が行政や社協だけでは足りなかったことがうかがわれる。また、個人が

らの相談も増加している。活動したいが何をしてもよいかわからない、どうしたらいいのかわからないなど活動までステップが必要な方もあり、そういった方にはサロンなどに参加してもらい、そこでスタッフが傾聴したりその人の強みやスキルを見極めながら時間をかけてコーディネートする体制になってきている。

講座については、大きく見直しを図り、内容を時流に合わせて充実させた。市の関係課や県社会福祉協議会、県内の他市町村支援センターなどとの協働企画も試み、全国レベルの高額の講師を招聘することに成功した。また、そこで得た関係が次年度に続くという成果が得られたことは大きかった。台風災害や新型コロナウイルス感染防止対策で3講座が中止になるなど総参加者数は前年を下回ったが、時流に合わせたテーマでは住民自治協議会関係者や他市町村の行政職員の参加を得て、定員を超えた講座があり、県内では先進的な企画ができているものと捉えている。今後も全国の先進的な研修などに出かけながら、充実を図っていききたい。

「まんまるサロン」は、昨年度「機関誌発送サロン」として試験的にスタートしたが、そこから派生的にボランティアサロン、定年前後の男性のサロンが立ち上がり年間22回の開催を数え定着しつつある。個人がセンターやNPOの活動の一端を担う仕掛けを作り出し、市民ひとりひとりが参画できる場づくりを行ってきた。年間延べ149人が参加し、サロンがない日にも訪れる人が増えてきている。

(3) 市民公益活動の促進を図るためのその他の事業など

<事業内容>

- ① 市民公益活動の促進を図るための事業の企画・提案
 - ア ながの協働ねっと
 - イ 他団体への会議スペース提供
- ② 市民公益活動団体の活動資金調達のための物品販売支援
 - 展示スペースの提供
- ③ 市民協働サポートセンターの周知・広報
- ④ その他
 - ア スタッフ研修
 - イ スタッフ全体ミーティング
 - ウ インターンシップ受入れ
 - エ その他必要な事業

<事業目標>

- ① 「ながの協働ねっと」との協働による各プロジェクトの充実
- ② 市民団体から活動資金調達のための商品展示の要請があった場合、展示スペースを提供し、陳列する。
- ③ 行政、地域、企業との人的ネットワークを形成することでセンター周知を図る。

- ④ スタッフのスキルアップ及びスタッフ間の情報を共有化する。

＜事業実績＞

① 市民公益活動の促進を図るための事業の企画・提案

ア ながの協働ねっと

■ながの協働ねっと理事会 （実施回数 年9回／述べ人数 51人）

【主な関係団体】

- ・ NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会
- ・ NPO法人食育体験教室・コラボ
- ・ NPO法人長野県NPOセンター
- ・ NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト
- ・ NPO法人ヒューマンネットながの
- ・ NPO法人ながの電気クラブ
- ・ NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北

■忍者をふやそう大作戦 （実施回数 年1回…ハート手裏剣寄付審査会）

理事3名が参加

■《2019年度 大きな協働プロジェクト事業》

地域まるごとキャンパス

（実行委員会 年4回／ フィールド提案数 30団体 40件

説明会・イベントを含めた述べ参加人数 340人

プログラムに参加した学生 207人）

【主な関係団体】

- ・ NPO法人長野県NPOセンター
- ・ NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト
- ・ NPO法人ヒューマンネットながの
- ・ NPO法人みどりの市民
- ・ NPO法人長野スポーツコミュニティクラブ東北
- ・ ウェルカム三才児プロジェクト
- ・ 社会福祉法人長野県社会福祉協議会
- ・ 長野県立大学学務課
- ・ ながの環境パートナーシップ会議
- ・ ユースリーチ

■長野市民新聞「市民とNPOのひろば」編集委員会

（実施回数 年12回／参加述べ人数 38人）

今年度は、編集委員を設けず、参加したい人が自由に参加できるように企画した

イ 他団体への会議スペース提供

貸出件数 116件／利用人数 713人

② 市民公益活動団体の活動資金調達のための物品販売支援

展示スペースの提供／利用団体 18 団体

③ 市民協働サポートセンターの周知・広報

ア FMぜんこうじ出演

イ フェイスブック（SNS）で継続的なつながりを維持し、センターの周知に役立てた

④ その他

ア スタッフ研修

期日	内容
5月14日(火)	休眠預金説明会
6月16日(日)	まちむら寄り添いファシリテーター養成講座基礎編第1回
6月17日(月)	地域福祉の方向性と地域福祉コーディネーターの役割講座
6月20日(木)～21日(金)	NPO支援者センター初任者研修会
7月3日(水)	SDGsを学ぶ第1回協働講座
7月5日(金)	地域づくり講座「発想力を育む」
7月7日(日)	まちむら寄り添いファシリテーター養成講座基礎編第2回
7月17日(水)	まちむら寄り添いファシリテーター養成講座基礎編第3回
8月6日(火)	SDGsを学ぶ第2回協働講座
9月3日(火)	SDGsを学ぶ第3回協働講座
9月7日(土)	ボランティアコーディネーション力検定2級
9月18日(水)	「福祉教育のススメ」拡大研究会
10月2日(水)	住民参加を促すボランティアコーディネーションとケース検討講座
10月16日(水)	SDGsを学ぶ第4回協働講座
11月6日(水)	ファシリテーショングラフィックの取得講座
11月12日(火)	会場の場に活かされるコーディネーション力講座
1月22日(火)	活動プログラム作り講座
1月24日(木)	社会貢献ファシリテーター養成講座
2月22日(土)～23日(日)	全国ボランティアコーディネーター研究集会

イ スタッフ全体ミーティング

◆ 毎月2～3回開催

◆ FBメッセージ、チャットワークを利用し随時連絡事項をスタッフ全員で共有

エ その他必要な事業

◆ 市民活動支援課との定例会議（毎月1回）

◆ その他関係団体プロジェクトへの参加

- ・ もんぜんぷら座運営委員会
- ・ もんぜんぷら座消防訓練

- ・ 長野県地域づくりネットワーク
- ・ 行政改革推進審議会
- ・ 視覚障害者福祉協会音訳ボランティア養成講座
- ・ S D G s de 地方創生ゲーム ワークショップ
- ・ 千曲市市民活動交流センターのあり方検討会
- ・ 鬼無里熱人ワーク会議
- ・ 生活支援体制整備事業第一層協議体会議
- ・ 長野市シニアアカデミーボランティア講座
- ・ 大岡生活支援体制整備協議体
- ・ 小田切生活支援体制整備協議体
- ・ 長野市災害ボランティア委員会
- ・ 長野県災害支援ネットワーク情報共有会議
- ・ 長野市災害ボランティアセンター連携会議
- ・ 長野市災害ボランティア委員会豊野連携会議
- ・ 令和2年度「ながのまちづくり活動支援事業」中間報告会・予備審査会・審査会
- ・ 地域福祉ワーカー連絡会議
- ・ 地域発元気づくり支援金長野地域活用事例発表会
- ・ N P O等による協働・連携構築事業助成プログラム公募説明会
- ・ 飯山林福連携事業セミナー報告会
- ・ 地域づくり出合いのひろば
- ・ 吉田地区青少年健全育成住民の集い
- ・ 長野県N P O法人設立講座
- ・ 市民活動サポート等に関わる情報交換会



4月 新入生応援フェス（ユースリーチ共催）



6月 ハート手裏剣寄付プレゼンテーション



6月 地域まるとキャンパス学生説明会



7月 地域まるとキャンパス エシカルフェス参加



毎月開催 市民とNPOのひろば編集委員会



10月 会員ミーティング「市民交流センターについて知る」

＜評価と課題＞

NPOを中心としたネットワーク組織「ながの協働ねっと」の事務局として、各プロジェクトを通して、多種多様な団体・市民が創り出す協働の輪の中でコーディネーターの役割を担っている。昨年からは、「大きな協働プロジェクト事業」として、高校生以上の学生と市民活動とをつなぐプロジェクト『地域まるとキャンパス』を実施。ながの協働ねっと内外から広くフィールド募集し、30 団体から 40 事業（前年比 117%）を採択。282 名の学生から申し込みがあり、内 207 名（前年比 131%）の学生が実際に各フィールド活動に参加した。活動を通して各団体の活動趣旨に共感し、継続的な活動につながっている学生もいることから、学生の市民活動への理解促進にも一役かうことができたと感じている。また、学生を受け入れた団体とは、課題やその意義を共有しさらにプログラムのミッションやあり方について議論を継続していく。

10 月に起きた東日本台風の被災地支援では、これまでのつながりを活かし、団体間で助け合う姿

も見られた。顔の見える関係の構築が有事の際にいかに機能するか、肌で感じた半年だった。今後、事務局としての役割も強化していく必要がある。1月に開催した会員ミーティングでも、それぞれの支援活動について振り返り、今後に向けて協働ねっととしてどんなことができるかを話し合った結果、卒業したプロジェクトである「信州発一杯のみそ汁プロジェクト」の一つとして、復興味噌プロジェクト（仮称）が立ち上がった。次年度につながる取り組みとなった。

その他のプロジェクトも含め、協働の場づくりをしながら、NPO関係者と二人三脚で、「ながのの未来を創る、新たなコミュニティ」を目標に邁進していきたい。

スタッフの育成では、新人2名に対する研修の機会を増やし、ボランティアコーディネーション力検定2級を取得した。またスタッフミーティングを毎月複数回行うなど今後もさらに研鑽を重ね、他団体との連携・協働につなげていきたい。

（４） 施設管理業務

<事業内容>

- ① 利用者・利用団体の登録・更新、データベース化、ホームページでの団体リンク集作成・管理業務
- ② 利用統計資料の作成
- ③ 情報交換スペースの管理
- ④ 備品類の管理

<事業目標>

- ・ 窓口業務における利用者数の増加
- ・ 利用者によるセンターの評価向上
- ・ 利用しやすい演出と情報の鮮度を保つ
- ・ 他の機関とも広くつながりを持つ

<事業実績>

- ① ・市内NPO法人については設立順・分野別に情報を整備し、内閣府の「NPO法人ポータルサイト」の情報をリンクさせホームページ上で公開
 - ・ 団体別にファイルを作成し、チラシ、団体情報をファイリング
 - ・ 市内NPO法人・ながのまちづくり活動支援事業の補助金交付団体については、個別のファイルを維持管理し、新設団体についてはファイルを追加
- ② 月末に 利用統計資料を作成し、担当課へ提出している
総利用者数 6,807 人
- ③ 市内外の公益活動団体に関するチラシ・広報誌を収集、陳列
センター内の2つの円卓は、その存在が認識されてきており、日々の情報交換スペースとして、団体の会議や交流イベントにも頻繁に利用された。

＜評価と課題＞

センター利用者数は 6,807 人（地域まるごとキャンパスに参加した学生 207 人は含まず・前年比 100.9%）とほぼ前年並みだったが、災害関係の相談が、発災から年度末まで続き、相談件数は去年の 1.5 倍の 249 件となった。災害以外でもこれまでの関係づくりやサロンなどでの参加機会創出により、個人の相談も増加の傾向がみられる。今後、地域の担い手不足が叫ばれる中、この人材をいかに NPO や地域づくりへ参加できる仕掛けをしていくかがカギとなる。

また、関係団体プロジェクトへの参加は去年の 1.5 倍の 26 件に上り、協働の窓口として、またコーディネーションできる人材の存在が広く認識されてきていると思われる。昨年度に引き続き、住民自治協議会・学校等多方面からセンターに寄せられる相談や依頼数も増加、コーディネートが広がっている。

NPO cafe プチまんまる

「まちの担い手が生まれるカフェ」 大妄想会議

居場所や活動拠点がほしい人、まちを良くしたい人、おもしろいことが好きな人集合！
「カフェ」から妄想をぶくらせてみよう！ 何か生まれる？ かもしれません。

5月17日(金)18:30～20:30
みらいく早苗町 地域交流スペース(長野市早苗町 41-3)
参加費:無料 ★ 関心のある方ならどなたでも参加できます！

問い合わせ ■ 市民協働サポートセンター
TEL:026-223-0051 e-mail:npo@nagano-shimin.net

おやしの開け家みたいな場所があったらいいな。おいしいもの大好き

子育て中のママたちが集まる場所がほしいな...

子どもが集まれるところ！

もや もや もや

楽しいこと大好き！

定年後は 何をする？

“人生後半戦”の楽しみとは“

定年後は、何をやっても やらなくても自由！

“何か”したい、でも“何か”ってなに???

みんながもやもやしてる このテーマ！

オジメン同志のしゃべくりタイムに

お気軽にご参加ください！

定年だって
まだまだ
若い！

「終わった人」
なんて言わせない！

日時 5月25日(土) 13:30～16:00

場所 長野市市民協働サポートセンター

参加費 無料

対象 定年後何しようかという方、

もうすぐ定年の方、すでに定年後を楽しんでいる方！

定員 15名

ゲスト 「男の脳鳴倶楽部」

「男の脳鳴倶楽部」は、三陸ががやみひろは「かがやき男塾」の受講生が卒業後も何か新しいことをしようと自分たちで様々な企画を考え活動している団体です。

■ 主催・問い合わせ・申し込み

市民協働サポートセンター
長野市新田町 1485-1 もんぜんぶら座3階

TEL: 026-223-0051
FAX: 026-223-0052
メール: npo@nagano-shimin.net

長野のすみっから革命をおこそう！

寄付カッションしよう！

寄付や募金をしたことがありますか？

使わなくなった服や物を誰かに譲る。それも寄付の1つ。寄付って、身近にあふれているものなんですね。

今回は、寄付について考える交流会です。

どうやったら寄付ってしやすい？

募金したくなる募金箱って？

街でよく聞く赤い羽根共同募金ってなに？

みなさんで、いろんなアイデアをワイワイ

出し合いしましょう！ 絵を描いたりなーんでもOK！

小さなお子さんを連れてきててもOKですよ。

アイディアマンよ！
集まれ！

◇日時 6月1日(土)10:30～13:00

◇場所 長野市市民協働サポートセンター 3F

◇参加費 無料

◇対象 どなたでも参加できますよ！

◇申し込み 市民協働サポートセンター まんまる

tel:026-223-0051 Email:npo@nagano-shimin.net

主催：市民協働サポートセンター 企画協力：長野県共同募金会

地域が育つ、出会い、つながり
地域 まんまる
in 小田切

車なきや どうやって暮らしていくだえ？

高齢者の運転事故が問題視されるこの頃。
でも、車なきや暮らしにいけない！ という切実な声。
中山間地に暮らし続けるために、
今こそみんなで知恵を出しあって乗り越えていきたい！

そんな中山間地からの発信と、県内の事例や、国の施策、
みんなで学んで、アタマひねって考えましょう！

7月17日(水)13:30~16:00
小田切交流センター2階学習室1

参加費:無料 定員:30人程度
対象 NPO・住民自治協議会・地域の交通問題に関心がある人などなたでも
主催 長野市市民協働サポートセンター
共催 小田切地区住民自治協議会

★楽しいオプション企画があります！
詳細は裏面をみてくださいね！

■申し込み・問い合わせ■
長野市市民協働サポートセンター
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
e-mail:npo@nagano-shimin.net



筆もじを 書いてみよう！

筆ペンで味わいのある文字を書いてみよう。
実際に書けるようになりますよ。
ついでに、まんまるの看板も書いてくれませんか？



日時 : 8月24日(土)13:30~15:30頃
場所 : 市民協働サポートセンター (もんぜんぶら座3階)
講師 : 込山哲也さん
材料費:1,000円(筆ペン・フレーム等材料費)
主催・申込み:市民協働サポートセンター まんまる
TEL:026-223-0051
メール:npo@nagano-shimin.net
ホームページ・フェイスブックもやっています。みてみてね。

環境問題を考えよう
紙の手提げ袋を作ってみよう！

第2回 手提げ袋ワークショップ

素敵なプレゼントがあります！
完成した紙袋に入れてください★

主催 株式会社 水島紙店
共催 市民協働サポートセンター まんまる

お申し込み方法
どちらにご連絡いただいてもかまいません

株式会社 水島紙店
手提屋 まんまる
0120-358-296 026-223-0051
contact@tesageya.net npo@nagano-shimin.net

お名前 ご連絡先 参加人数(大人○名 小人○名)をお聞かせ下さい。

持ち物=備品・手提袋の材料はご用意致します
(コラージュ・デコレーションしたいものがありましたらご持参下さい)

定員になり次第締め切らせて頂きます
定員=16名(予約先着順です) 参加費=無料

講師=渡辺ヒデ子さん
日時=令和元年10月12日(土曜日)
時間=受付13:15~開始13:30~終了16:00
会場=もんぜんぶら座 7階701会議室
〒380-0835 長野市新田町1485-1
駐車場=有ります
お車でお越しの際は、TOGOパーキングまたは横屋田駐車場をご利用ください。駐車場をもんぜんぶら座事務局にお持ちいただければ、1時間200円の駐車料金のうち、100円の助成が受けられます。

MIZUSHIMA KAMITEN
TESAGE-YA PRODUCE
2019.10.12. SAT
PM 13:30~START

<https://tesageya.net>
Facebook



手提屋
もんぜんぶら座
SBC (TOGO)
中央郵便局
長野駅
市役所
横屋田小学校文
TOGO 駐車場

みんな、情報発信どうしてる？ ～ 広報の悩みをシェアして語り合おう～

セルフブランディング、団体アピール etc. みんなどうしてる??

日時：2019年11月2日(土) 13:30～16:00

場所：もんぜんぶら座3階 市民協働サポートセンター まんまる

対象：NPO関係やフリーランスの方など、関心のある方などでも

参加費：無料

定員：15名

内容：広報の悩みをシェアし、
簡単なワークを通して
気づき合おう。



企画協力団体：

NPO法人Mam's Style：

子育てと仕事を兼ねるママの会として、子育て中のお母さんが中心になって活動しています。

子育て中のリフレッシュ講座や就労支援イベントを開催しています。

Social Design Center (ソーシャルデザインセンター)：

NPOを始め社会貢献活動に関わる広報のディレクター集団です。

ポータルサイト「ナガクル」の運営協力やSDGs普及にも取り組んでいます。

主催・申込み：市民協働サポートセンター まんまる

TEL：026-223-0051

メール：npo@nagano-shimin.net

※ Facebookのイベントページからもお申込みいただけます。



イベントチラシ

わたしたちの美術館を 考えよう！

とき：2019年11月13日(水) 10:30～12:00

ところ：こども広場 じゃん・けん・ぼん
(もんぜんぶら座 2階)

信濃美術館が、2021年に新しく生まれ変わります。
みんなが行きたくなくなる美術館を考えたみませんか？
小さい子どもをもつお母さんたちならではの、
素敵なアイデアを出し合ひましょう。

内容 ①新しい美術館の説明
②アイデアを出してみよう！
「こんな美術館になったらいいな」

対象 乳幼児のいる親子
(長野市外の方も大歓迎です)

定員 15組

★当日は、同じ部屋で保育士が
お母さんと一緒にお子さんを見守ります。

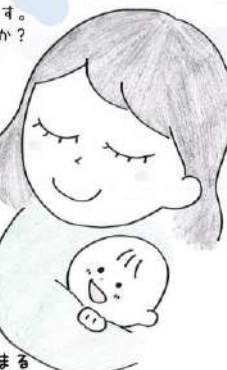
参加費 無料

申込先 市民協働サポートセンター まんまる

長野市新田町1485-1もんぜんぶら座3階

TEL:026-223-0051

メール:npo@nagano-shimin.net



↓まんまるの情報はこちら↓



主催：長野市市民協働サポートセンターまんまる
長野県信濃美術館・長野県県民文化振興課 信濃美術館整備室

介護している人の 声が聞きたい！

日時：2020年2月7日(金)
13:30～16:00

場所：大豆島総合市民センター
多目的ホール



参加費
無料

新聞やテレビで「介護する人の孤立による事件」が報道されるたび、
「なんとかならなかったの？」「誰か助けられなかったの？」と思いませんか？
介護している人の悩み、西りごと、気持ちを受け止めることができるのはどんな活動？
市内各地域の取り組みは当事者に伝わっているのかな？
今回の地域まんまるは、実際に介護をしている人や介護を経験した人から話を聴いて、
地域で「介護している人」を支えるために何が必要か？ 意見交換します。

対象：介護をしている人、介護経験者、
介護事業関係者、関心のある人など
内容：①今ある取り組みを知ろう！
②介護している人から話を聴こう！
③感じたこと、できそうなこと、やってみたいこと
を出し合ってみよう！

主催：長野市市民協働サポートセンター

共催：大豆島地区住民自治協議会

◆問い合わせ・申し込み◆

長野市市民協働サポートセンター

〒380-0835 長野市新田町1485-1もんぜんぶら座3階

TEL：026-223-0051 FAX：026-223-0052

メール：npo@nagano-shimin.net



Think about
a museum.

学生対象
中高生の方

参加費
無料

定員20名
事前申込が
必要となります

申込は
こまめ！
お申し込みください

Think about a museum 美術館を考える

NPOカフェまんまる×長野県信濃美術館

2020年3月1日(日) pm1:30～3:30

もんぜんぶら座 3階 会議室302

長野県信濃美術館は、2021年に新しく生まれ変わります。

みんなが行きたくなくなる美術館を、一緒に考えませんか？

第2弾は学生のみなさんを対象に開催します！

美術館が大好きな方はもちろん、美術館に行ったことがない方も大募集！

申し込み先 市民協働サポートセンターまんまる 長野市新田町1485-1もんぜんぶら座3階

TEL:026-223-0051 E-mail: npo@nagano-shimin.net

主催：長野市市民協働サポートセンターまんまる、長野県、長野県信濃美術館

NPO ステップアップ講座

NPO初歩講座

NPOってなあに？

NPOってなんだ？ 何するところ？ 何する人たち？
ボランティアとNPO、何が違う？ 法人設立したいけど・・・？
などなど「？」をお持ちのみなさん
まずは、きほんを学んでみましょう！

日 時 10月30日(土) 18:30~21:00

12月11日(水) 13:30~16:00

2月26日(水) 18:30~21:00

場 所 もんぜんぶら座3階

市民協働サポートセンター

参加費 300円(資料代)

対 象 関心のある方

♪ どなたでも参加できます！ 気軽にどうぞ～。
♪ 講師はセンタースタッフがつとめます

■申し込み・問い合わせ先■

長野市市民協働サポートセンター (もんぜんぶら座3階)
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052 e-mail:npo@nagano-shimin.net

NPOカフェ まんまる



NPOステップアップ講座 広報のいろはのい
「ペライチ」で
ホームページを作ってみよう！

おどろきの簡単さ、早さ、安心を提供
だれでもあつという間に ホームページが作れる！



たったの3ステップで ホームページを公開できます！

団体のホームページがあつたらなあ～
昔作ったホームページが古くなくて変えたいなあ～
簡単にできて安く使えるツールが欲しいなあ～
もっと見てもらいたいなあ～ などなど悩んでいませんか？

日 時 5月19日(日) 13:30~16:00

場 所 市民協働サポートセンター

参加費 1人 300円

定 員 15団体

持ち物 パソコン

講 師 大原康弘さん

講師の大原康弘
さん(株式会社ペ
ライチ)



■主催・問い合わせ・申し込み■

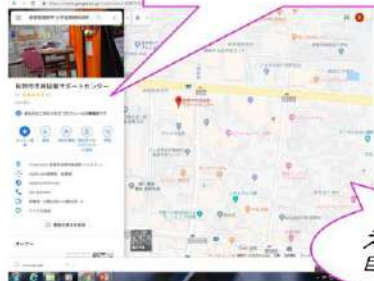
長野市市民協働サポートセンター
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
e-mail:npo@nagano-shimin.net

株式会社ペライチ 大原康弘
法人支援部 制作代行サービスリーダー・
長野県代表ペライチサポーター
ペライチ創業期山下氏に、声をかけていた
だき10年勤めたシステムエンジニア職から
転職を決意。大切にしていることは、製品・
サービスを売るよりも、目の前の人の課題
解決を優先とすること。

NPOステップアップ講座 広報のいろはのろ

Googleマイビジネス を使ってみよう！

グーグルマップの検索で出てくる これ！



- ・広報力アップ！
- ・だれでも簡単編集！
- ・イベント申し込み、
お問い合わせにも
ワンクリック対応！
- ・閲覧状況がすぐわかる
インサイト情報！

えっ 無料ツール？
自分で編集できるの？

日 時 6月8日(土) 13:30~16:00

場 所 市民協働サポートセンター まんまるテーブル

参加費 1人300円

対 象 NPO、ボランティアなど非営利の活動をしている方

定 員 15団体

持ち物 パソコン (Googleアカウントをご用意下さい)

講 師 ソーシャルデザインセンター 岡田義彦さん

◆主催・問い合わせ・申し込み◆

長野市市民協働サポートセンター
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
E-mail:npo@nagano-shimin.net

正しいチラシの 作り方& 写真の撮り方



チラシには何を盛り込めばいいの？
デザインするポイントは何？
どんなときも、誰に伝えたいの？
チラシやパンフレットに入れるための
写真撮影のコツも伝授します！
チラシ作りに悩んでいる方は、ぜひお出かけください。

◎日 時 : 7月20日(土) 13:30~16:00

◎場 所 : もんぜんぶら座6階 601号室

◎参加費 : 1人300円

◎定 員 : 15人

◎持ち物 : デジカメ・スマートフォンなど

◎講 師 : 寺澤順子(ソーシャルデザインセンター)

■主催・問い合わせ・申し込み■

長野市市民協働サポートセンター
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052



**今の時期
メンバーと共に
学んでおきたい
組織のこと
資金のこと
信頼について**

助成金シーズン到来!

助成金を使って活動したいけど、申請が難しく、不採択になってしまう。何が原因? 助成金はいずれなくなってしまう。その後活動を続けていくには、どう活用したらいいの?

9月16日(月・祝)
15:00~18:00

**対象: NPO法人
一般社団法人
任意団体
住民自治協議会等**
(任意団体・住民自治協議会は、助成金セミナーのみ参加可)

**参加費: 無料
定員: 25団体**

自分たちの活動はどこにつながっている? 誰のため、何のために活動しているの? なぜ、なんのため? どんな社会を目指すのか?

もんぜんぶら座 303会議室

講師: 山田泰久さん
(一般財団法人非営利組織評価センター・NPO法CANPANセンター理事)

**主催: NPO法人長野県NPOセンター
一般財団法人非営利組織評価センター
共催: 長野市市民協働サポートセンター**

<申し込み・問い合わせ>
長野県NPOセンター TEL:026-269-0015 info@npo-nagano.org
長野市市民協働サポートセンター TEL:026-223-0051 npo@nagano-shimin.net

NPOステップアップ講座 会計のいろは

**会計事務処理
お悩み相談会**

NPO団体にとって、日々の出納から決算まで会計事務処理は悩ましい作業です。長年、NPOの会計実務を担当してきたベテラン講師が皆様の困りごとにお答えします。お気軽にご相談ください。

個別相談が無料です!

日時: 9月21日(土) 13:30~16:00

場所: 市民協働サポートセンター まんまるテーブル

参加費: 無料

**対象: NPO、ボランティアなど非営利の活動をしている方
5団体まで事前予約制
(1団体につき30分までの個別相談です)**

講師: 轟 富美子さん(NPO法人長野県NPOセンター事務局)

◆主催 お問い合わせ・申し込み◆
長野市市民協働サポートセンター
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052
E-mail: npo@nagano-shimin.net

2020年ドコモ市民活動団体助成事業

**助成金プログラム説明会
& 助成金活用セミナー**

NPOや地域団体にとって資金調達は常に課題です。ぜひ、助成プログラムの目的、支援する側の思いを知ることから始めてみませんか?

ドコモ市民活動団体助成事業は、子どもを取り巻く様々な社会課題に取り組み市民活動団体や、これまでの活動を充実・発展させるため、また、新たな社会課題にチャレンジするための助成プログラムです。

今回の長野での説明会は、本助成プログラムの説明に加えて、さまざまな助成プログラムの選考に携わっているI・H・O・E[人と組織と地球のための国際研究所]川北秀人さんを講師に、助成金を活用するために必要な考え方や申請のポイントなどをお話ししていきます。

子どもの健全育成への支援に限らず、地域で活動するみなさまにもぜひ聞いていただきたい内容です。なかなかない機会、ふるってご参加ください!

日時: 10月24日(木) 18:00~20:30

場所: もんぜんぶら座 304 会議室
(長野市新田町 1485-1)

講師: 川北秀人さん
I・H・O・E[人と組織と地球のための国際研究所]

**対象: 市民活動団体
住民自治協議会など**

参加費: 無料

定員: 50名(先着順)

内容:
①ドコモ市民活動団体助成プログラム説明
NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド事務局
②川北秀人さんによる講義
・資金提供者が期待すること
・助成金を活用する意義
・助成金を最大限に活かすための心構えなど

川北秀人さんプロフィール
I・H・O・E[人と組織と地球のための国際研究所]代表者兼
ソシオ・マネジメント編集発行人
1964年大田生まれ。87年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。広報や国際採用などを担当して、91年退社。その後、国際青年交流 NGO の日本代表や国會議員の政策担当秘書などを務め、94年にI・H・O・E設立。市民団体のマネジメントや、企業の社会責任(CSR)への取り組みを支援するとともに、NPO・市民団体と行政との「協働しやすさ」を段階で評価する世界初の「協働度調査」を2004年から5回にわたって実施するなど協働の基盤づくりを進めている。

**主催: 長野市市民協働サポートセンター
共催: NPO法人長野県NPOセンター・NPO法人ながのこどもの城いきプロジェクト
協賛: NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド**

■問い合わせ・申し込み■
長野市市民協働サポートセンター
TEL:026-223-0051 メール: npo@nagano-shimin.net

申し込みフォームはこちら→

NPOステップアップ講座×長野県地域福祉コーディネーター総合研修

地域の未来は協働でつくる。

地域の課題は地域だけでは解決できない。行政だけでもムリ。NPOだけでもムズカシイ。地域組織だけでもキビシイ。それはわかってはいるけど・・・

あらためて、「協働」について考える時期が来ている。でも、そもそも協働ってどうやってやればいいんだ? 本講座は、講師にI・H・O・E[人と組織と地球のための国際研究所]川北秀人さんを迎え、協働で地域の未来をつくるための考え方を学びます。

**日時: 10月24日(木)
13:30~17:00**

**場所: もんぜんぶら座
3階 304 会議室**

参加費: 500円

**対象: NPO・企業・
住民自治協議会
社会福祉協議会
行政職員ほか
関心のある方**

定員: 60名(先着順)

**主催: 長野市市民協働サポートセンター
長野県社会福祉協議会
共催: ながの協働ネットワーク・長野県NPOセンター
協力: 長野市ボランティア連絡協議会**

講師: 川北秀人さん
(I・H・O・E[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人)
<プロフィール>
1964年大田生まれ。87年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。その後、国際青年交流 NGO の日本代表や国會議員の政策担当秘書などを務め、94年にI・H・O・E設立。市民団体のマネジメントや、企業の社会責任(CSR)への取り組みを支援するとともに、NPO・市民団体と行政との「協働しやすさ」を段階で評価する世界初の「協働度調査」を2004年から5回にわたって実施するなど協働の基盤づくりを進めている。

<連動企画>
持続可能な地域を目指す小規模多機能自治
日時: 10月25日(金) 13:00~16:15
場所: ホクト文化ホール小ホール
講師: 川北秀人さん
参加費: 無料 主催: 長野市

■問い合わせ・申し込み■
長野市市民協働サポートセンター
TEL:026-223-0051 メール: npo@nagano-shimin.net
長野県社会福祉協議会
TEL:026-226-1882 メール: vcen@nsyakyu.or.jp

申し込みフォームはこちら→

長野市地域包括ケア推進セミナー

入場無料

持続可能な地域を目指す小規模多機能自治 ～地域包括ケアシステムにおける地域づくりとの連動を考える～



講師 川北 秀人 さん

IIHCE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者
兼 ソシオ・マネジメント編集発行人

日時 令和元年10月25日(金) **会場** ホクト文化ホール
(長野県県民文化会館)
午後1時00分～
午後4時15分
(受付開始: 午後12時30分)
小ホール
(長野市若里一丁目1番3号)

対象
○住民自治協議会、自治会等の役員や構成員の方
○生活支援コーディネーター、地域福祉ワーカー、協議体等の構成員の方
○地域包括支援センター(在宅介護支援センター)、福祉事業者の方
○行政で地域福祉担当部署や地域づくりに関係する部署の方
○地域づくりに関心のある団体・個人の方 等

■定員: 200人
■申し込み: 裏面参加申込書にご記入いただき、10月18日(金)までに
中部地域包括支援センター(224-8574)へ
FAXでお申し込みください
■問い合わせ先: 中部地域包括支援センター 電話: 224-7174

【主催】長野市 【共催】長野県社会福祉協議会



NPOステップアップ講座
イベント企画のいろは
× イベントアーズミーティング

引きつける “イベント”って、 どんなん?

イベントのキモは? 企画で大切なことは?
NPOなど、地区でイベントを企画している団体や
個人の皆さんと共に学ぶ講座です。

日時: 12月13日(金)
18:00～20:30
場所: もんぜんぶら座3階 304会議室
参加費: 300円
講師: 河合宗寛 さん
(ファシリテーション・ラボ信州代表)
定員: 20人

◆主催 お問い合わせ・申し込み◆
長野市市民協働サポートセンター
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL: 026-223-0051 FAX: 026-223-0052
E-mail: npo@nagano-shimin.net



NPOステップアップ講座 コミュニティマネジメント いろはのろ



「一緒に継続して活動してくれる仲間がほしい」と悩んでい
ませんか?人を集める参加を促す、仲間づくりには“策”が必要で
す。待っていては人集まりません!
コミュニティマネジメントのプロ、呉哲煥さんと次の一手を
考えましょう。

講師 呉 哲煥さん

(NPO法人CRファクトリー代表理事)

場所 長野市生涯学習センター3階 第1会議室

参加費 1団体1,000円(2人以上4人まで)

※5人以上で参加の場合ご相談ください

対象 NPO・ボランティア団体・住民自治協
議会などの団体運営に携わっている方

定員 20団体(要申込み・先着順)

1/18(土)

15:00～18:00

◎主催・問い合わせ・申込み◎
長野市市民協働サポートセンター
〒380-0835 長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL:026-223-0051
FAX:026-223-0052
e-mail: npo@nagano-shimin.net

まんまるの情報はこちら↓



NPOステップアップ講座 会計のいろは

会計事務処理 お悩み相談会

NPO団体にとって、日々の出納など会計事務処理は悩ましい作業です。
期末を向え、助成金の処理・決算を控える団体をはじめ、

専門の税理士が
皆様の困りごとにお答えします。

身近なことから
お気軽にご相談ください。

活動計算書?

財産目録??

貸借対照表??

日時: 3月14日(土)13:30～16:00

場所: 市民協働サポートセンター まんまるテーブル

参加費: 300円

対象: NPO、ボランティアなど非営利の活動をしている方
5団体まで事前予約制

(1団体につき30分までの個別相談です)

講師: 北原 正明さん(税理士法人成迫会計事務所税理士)

◆主催 お問い合わせ・申し込み◆
長野市市民協働サポートセンター
長野市新田町1485-1 もんぜんぶら座3階
TEL: 026-223-0051 FAX: 026-223-0052
E-mail: npo@nagano-shimin.net



NPO カフェ おちまんまる

「まちの担い手が生まれるカフェ 大妄想会議」

開催日時 2019年5月17日 **場所** みらいく早苗町地域交流スペース

参加者 NPO（カフェ運営・居場所づくり・障害者施設・生活支援サービスなど）、高校生からシニアまで 14人+スタッフ3人

<自己紹介>

自己紹介しつつ、今日持ってきた妄想を簡単に紹介！

手話カフェ・駄菓子屋・高校生の居場所・オヤジの居場所などなど



会場を提供してくださった、一般社団法人
子育てみらいネットの山岸裕始さん(Thanks)

会場は
こちら



↑ココにチラシが！細かい気遣いが…♡

<グループワーク>

紙に「私が創りたい場所 ○○○○」と、その場所が5年後どうなっていたいか？ を書き、グループ内で共有。グループの参加者からアイデアや意見、「一緒にやりましょう」などのフセンを貼ってもらいました！ さらに、他のグループも回り、さらにフセンを貼り。

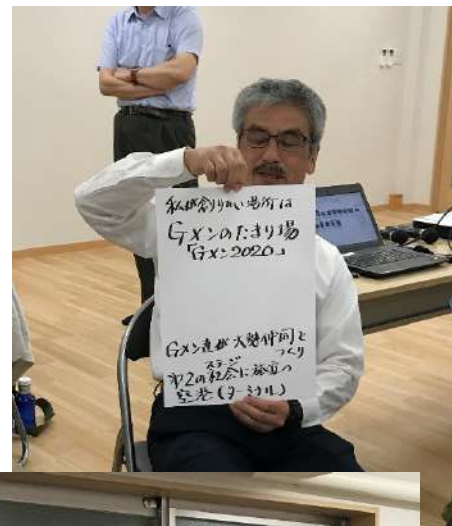
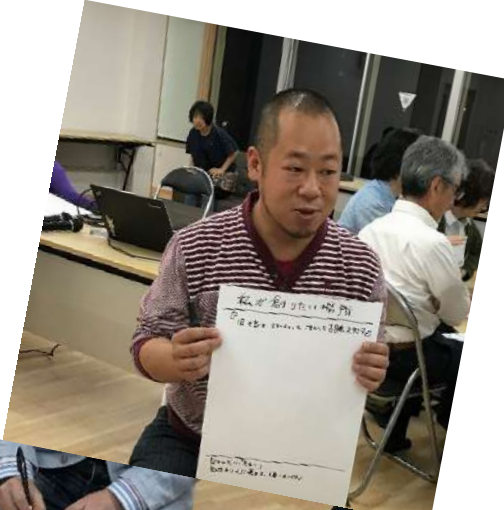
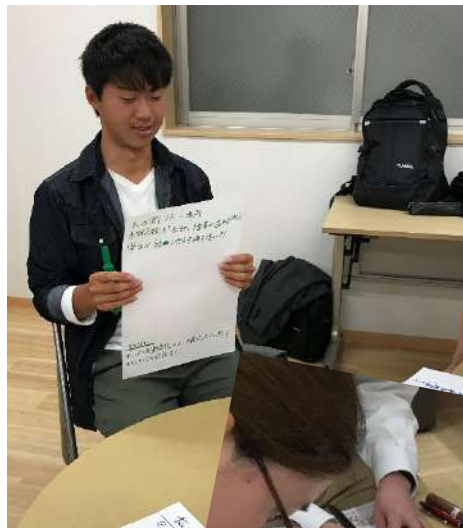
A3の紙を見せながら思ったこと、さらに広がった妄想を発表。紙はお土産として持ち帰り

<事例共有>

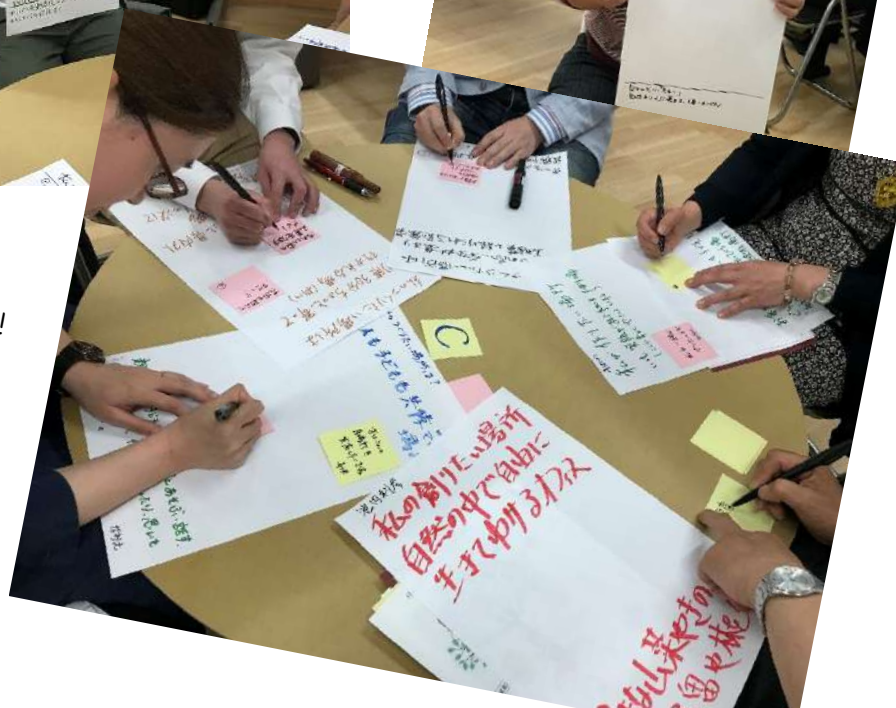
・千曲市「ごちゃまぜカフェ」 by

NPO法人Happy Spot Club 飯島陽子さん

・横浜市戸塚区 「NPO法人こまちぶらす」(報告書と事前インタビューから) by 企て人亀垣嘉明



アイデア
出して！
出して～！



ごちゃまぜカフェで
日々どんなことが
起きているのかな？

企て人の一人
亀さんこと
亀垣嘉明さん→



NPO カフェまんまる
すみっこ革命！「寄付カッション」

日 時 ： 6 月 1 日(土)10:30～13:00

場 所 ： 市民協働サポートセンター まんまる

参加者 ： 18 名(うち 3 名センター職員)

当日の様子

寄付についてみんなで考える、寄付カッションを開催しました。日ごろ自分たちが直面している現実や悩みを話したり、「こんな風にしたらもっと寄付が集まるんじゃないか」というアイデアなど、みんなでわいわい出し合いました。

第一部では「赤い羽根共同募金のヒミツ」という題名で、「赤い羽根共同募金」の歴史やその用途、事例など、共同募金会の塩澤さんから話を聴きました。昨年多くの募金を集めた「麦っ子広場」の井上さんに、どうやって集めたのかという話をしていただくと、参加者からは「自分の足でまわり丁寧をお願いすること。継続してつながっていくことの大切さを知りました」という感想が出ました。

そのあとのグループワークでは、みん



ながもっているアイデアを出し合い、議論しました。



▲自己紹介から始まり、みんなで議論
高校生も参加してくれました



▲赤い羽根▲麦っ子広場の井上さん興味津々

アイデアのまとめ

(1) 募金箱

◆ポスター、チラシとの連動

◆置く場所の工夫

- ・お祭りや文化祭の記念品に付加 or 近くに置く(工作で腕が動く)

◆デザインについて

- ・楽しいイラスト箱にする→募金箱コンテスト?
- ・お礼の手紙を置いておく
- ・募金するとロボットが動く
- ・富山の置き薬方式の募金箱を各家庭に置く(何か自分のタイミングで入れてもらう)
- ・おおきな募金パネル。みんなで協力して埋める
- ・募金お立ち台
- ・善光寺ブランドのお賽銭型募金箱

◆進捗管理

- ・SNSなどでリアルに状況報告

◆募金のリターン

- ・くじ付き募金箱→賞品をどうするか
- ・クラウドファンディングのリターン→断捨離、一日店長、おまつり盛り上げ

(2) 寄付付き商品

◆月ごとに食のメニューを変えてキャンペーン。「今月はカレー」カレーを買うとそのうちいくらかを募金されるシステム

◆ボランティアまたはお金を出して食事券を寄付→こども食堂

◆商品を買うと自動的に寄付される(例えば、COOPの牛乳1本につき1円寄付)

(3) 寄付を集める方法

◆チャリティーライブ→入場料が家にある食品

◆テレビ画面にてPR.その場でネットやカード募金(役所や病院、駅空港の待合室)

◆なぜ募金や寄付をしてほしいか思いを伝える

→誰に伝えるのか。想いを共感してくれる人、自分とつながりのある人に。

◆わかりやすく伝える(焦点を絞る)

◆直接お願い、報告をする(一回で終わらせない)

◆募金をしてくれる人を大切にする

(4) 資源の活用方法

◆ゴミの一番多くは服→なにかできないか

- ・スーツのレンタル→男性ものは多いが、女性ものが少ない。サイズも豊富にしたい。
- ・企業のリユースとコラボ(企業にお願いするためには、メリットも必要ではないか)
- ・家庭で不要なもの、誰かが欲しいものを広報ながの「ゆずります、ゆずってください」のように、交換(寄付)できるとよい。

地域まんまる in 小田切「車なきやどうやって暮らしてくだえ？」まとめ

開催日:2019 年 7 月 17 日 (水) 13:30~16:00

場 所:小田切地区交流センター 体育館

参加者:メディア含め 73 人 (+スタッフ 2 人)

小田切地区住民・各地区住民自治協議会関係者・交通安全協会・地域包括支援センター・
ボランティア・NPO・行政職員等

内 容:

1. プログラム前半「各地区からの事例共有」

- 小田切地区かつら号
- 大岡地区ハッピー号
- 鬼無里地区ふれあいサロン (鬼無里の湯)・おでかけツアーズ
- 安茂里地区園沖区園ネットたすけあいサービス



2. プログラム後半「ワークショップ」

- ① 今ある交通手段や輸送の仕組みを有効に使う方法を考えよう
- ② 車がない生活を想像してみよう
- ③ 広い視野で、新しい方法を考えよう



- 発表 各グループ 2 分

＜各グループの模造紙から＞

■各地区の公共交通を比べてみると？

◎小田切

「かつら号」

- ☺ どこへでも行かれる（停留所があるところなら発着地自由）
- ☺ 前日3時まで予約OK
- ☺ 地区外の人でもOK
- ☺ 料金（片道）
- ☺ おでかけパスポート地区内 110 円・安茂里 120 円
- ☺ 一般地区内 200 円・安茂里 400 円
- ☺ 毎日運行していない・・・毎日だと良いな

「路線バス（川後線）」

- ☺ 朝と夕方しか便がない

◎大岡

「ハッピー号」

- ☺ 当日予約OK
- ☺ 車が3台ある
- ☺ 運転手もオペレーターも全員地区住民
- ☺ 動けない人は申請で自宅まで送迎。それ以外の人は集会所などへ集合
- ☺ 土日運休（乗り継ぐ路線バスは土日でも運行）
- ☺ 利用者減←人口減

◎七二会

「陣馬号」

- ☺ 予約なしで乗れる
- ☺ コースは固定

◎信更

「すずらん号」

- ☺ 交通政策課の委託でタクシー会社が運行
- ☺ 自宅近くからバス停まで
- ☺ 利用が少ない⇔利便性が悪い（曜日が決まっている）
- ☺ 新町病院に行く人はたくさん利用している

◎鬼無里

市営の路線バスとデマンドバス（各2路線）

タクシーなし・電車なし

◎中条

地区内デマンドタクシー3台あり。すべて支所に集まるようになっていて、地区外へは路線バスに乗り換える→新町病院へは便利になった

子どもたちの送迎の問題がある（タクシーで往復すると1万円かかる）



◎信州新町

市バス(スクールバス含めて10路線)→利用者減少。デマンド化を検討中

長野市内へは路線バス

ひじり観光タクシー

◎若穂

路線バス(長電)

乗り合いタクシー

JA お買い物バス どれも利用が少ない!

◎松代

路線バス

デマンドバス

タクシー

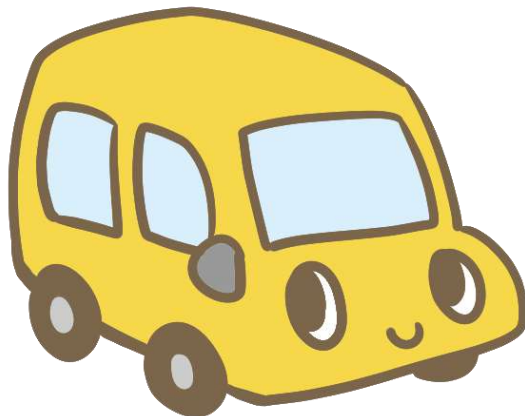
◎大豆島

地区内の移動手段がない

路線バスが不便

◎各地区の福祉自動車

通院のみで買い物には使えない



★市街地と山手では状況が大きく違う!! (→別で考えるのか?一緒に考えるのか?)

■今あるものを有効に活用する

- ◇ 現公共交通を利用できる方策を考えることが必要
- ◇ 有料運行規制の緩和・・・福祉バスの利用拡大
- ◇ 公共交通をみんなで使って維持できる?
- ◇ デイサービスの車を貸して!!
- ◇ 福祉移送サービスをもっと柔軟に
- ◇ 地域のイベントにレンタカー活用したら?
- ◇ 三輪の原付。田舎道なら安心
- ◇ 宅急便の車、郵便局の車、手を挙げたら乗せてもらえるといいな
- ◇ 乗用車のシェア
- ◇ 荷物を郵便局・バス・新聞配達に便乗輸送
- ◇ 送迎の車は、保険の話になると進まない!! もつと必要性をアピールしよう
- ◇ 松代はたくさんバスが走っているが、利用者が少ない。行政に頼っているだけではどうにもならない!
- ◇ 今あるものでがまんする・・・
- ◇ バスの中はコミュニティー
- ◇ タクシーと協力できないか?



■車のない生活について考えてみた

- ◇ 車のない生活をしてみたい気もする。それから考えたい
- ◇ 昔は 10km や 15km 歩くのは当たり前、今は 200m でも車を利用している
- ◇ 昔は若者は駅前まで歩いて仕事に行ったと聞いた!!
- ◇ 昔のようにバス停まで歩けば、健康にいいかな?でも、そのころには足腰痛くて歩けないかも?
- ◇ 車がなかったら公共交通機関やありとあらゆる手段を駆使するしかない・・・でも、高齢になったら長距離歩けないし、バスのステップ昇れないしどうするの?
- ◇ 歩く!!
- ◇ ウォーキングをするようになった。普段は見過ごしていたものを発見したり・・・ちょっとうれしくなった
- ◇ 歩く!!買い物カートで・・・健康になる!地域の人と顔見知りになる!!
- ◇ バスを使う
- ◇ 昔はどこまでも歩いた。武勇伝はたくさんある
- ◇ 車がないとお金がかからない?
- ◇ 昔は小さな地区にも商店があった
- ◇ 自転車



たとえば買い物・・・

- ◇ 移動販売車に頼る
- ◇ お店がたくさんあると買い物に困らない
- ◇ Aコープのやまなみ号の利用を考える
- ◇ 生協に来てもらっている。来てもらえなくならないように多くの方に利用してもらいたい
- ◇ ネットで買い物・通販
- ◇ スーパーに行けない(スーパーがない)→自給自足?
- ◇ 自営自消が多くなる
- ◇ 映画館に行けない→家で BR 鑑賞?公民館で上映会?

子どもを頼る?

- ◇ 車がなくなって動けなくなったら娘宅へいく。でも、いやだな。
- ◇ 子どもに頼る

あきらめる・出かけない・・・

- ◇ 車がなかったら畑はやめる、趣味も無理!
- ◇ 車なきゃでかけない(T_T)

助け合いの精神で

- ◇ ボランティアさんをお願いする
- ◇ ご近所の人にお買い物を頼む
- ◇ 隣近所でのおすそわけが復活する
- ◇ ついでの助け合いが生まれるのでは?



■新たなアイデア

人・もの・ことをシェア

- ✧ まだかつら号を利用したことない人のためのツアー。小田切巡り
- ✧ 高校生の通学シェア？→現実には難しい
- ✧ みんなで誘い合って出かける
- ✧ LINE やスマホアプリで自分と同じ目的地に行く車を見つけられるようにする
- ✧ 自動運転のバスや車
- ✧ 法律に縛られないお互いさまの乗り合い
- ✧ 福祉自動車の待ち時間、協力員が買い物代行を

いけないなら来てもらう？

- ✧ バスに買い物乗せる→バス停まで誰かが運ぶ・バスから誰かが運ぶ
- ✧ スーパーや病院が送迎サービスしてくれたら・・・
- ✧ 移動診療所、医者が地区を巡るとか公民館に来てくれるとか

今までと違う交通手段を活用

- ✧ 移動のツアーコンダクターを置く
- ✧ セニアカーや電動アシスト自転車で（集落内・地域内限定もあり？）
- ✧ セニアカー、雨の日でも使えるように新活せて
- ✧ 協力できる人、車、団体は市に申し出て長野市全体網羅する一大マップを作る
- ✧ 医者はテレビ電話で診察

ないものは創る

- ✧ 事業者などを巻き込んでNPOを立ち上げる
- ✧ 自治会内の支援による交通システムの確立
- ✧ 元プロ運転手を集めて送迎隊へ
- ✧ 安心安全を確保すればなんでもOK
- ✧ 頼みやすい仕組みづくり
- ✧ 支所・公民館と地区を回るぐるりん号のようなもの欲しい



＜発表のキーワードから＞

■現実は厳しい■

- ☺ 畑に行くには軽トラ必須。免許返納は難しい・・・。
- ☺ 行政サービスはニーズに合っていない！！そこに気づいてほしい(T_T)
- ☺ せっかくあるもの、私たちは使っていない！！

■うらやましい■

- ☺ かつら号ってすごい！！便利！！かつら号ができて小田切の北と南がつながり交流が生まれた
- ☺ 乗り合うときも自分たちでルールを作って活用。ex：小田切ではいきいきサロンのときに乗り合わせていくことがあるが、地区で1人200円と決めている（おでかけパスポートと同じ金額）。頼みやすい仕組みがあるといい

■今あるものをもっと有効に！！■

- ☺ 公共交通を使ってみんなでおでかけ。鬼無里モデル
- ☺ デイサービスの車、スクールバスや幼稚園、塾の車を活用できたら。垣根を取っ払って
- ☺ レンタカーを活用できないか？（シェアリングエコノミー？）
- ☺ 自動運転・ITの有効活用

■見方を変えると？■

- ☺ 地区・地域の垣根を越えて補完し合いたい
- ☺ 不便はメリット？！不便だと、お裾分けの文化やついでの支え合いが誘発される。顔と顔の見える関係ができて、集落で自宅開放型飲み屋も？

■こんなアイデア出ました■

- ☺ 移動販売車には地区の人が作った野菜を買い取ってもらって直売所へ運んでもらう
- ☺ 福祉自動車のカベを超える。柔軟に♡
- ☺ 宅急便・郵便局の車に乗せてくれないかな？
- ☺ 移動診療所があったらいいな

■地域づくり■

- ☺ 家族や近所でのたすけあい⇔自立できるしかけや仕組みを考えたい
- ☺ 大型スーパーでの買い物に頼るのをやめる？
- ☺ 車のない暮らしにはコミュニケーションが必須

■新たな仕組みづくり■

- ☺ NPOを創ってたすけあいの仕組みを作ろう。ご近所で支え合おう（園ネットのような取り組み・・・いいなあ～）→みんなが納得して仕組みづくりをすることが大切
- ☺ 法律の壁をすり抜ける！逆手にとっていこう！柔軟性が大切

■大きなまちづくりとしての考え■

- ☺ 歩いて行けるまちづくり→コンパクトシティという考え方

筆文字を書いてみよう！

1. 日時：2019 年 8 月 24 日(土) 13:30～15:30
2. 場所：市民協働サポートセンターまんまるテーブル
3. 参加人数：10 名(スタッフ 1 名込み)
4. 講師：込山哲也さん
5. 目的：チラシや看板、POP などを作る際にも筆文字は有効。また、普段なかなか持たない筆を持ち紙に向き合うことで、心にちょっとゆとりをもてるといいなと考える。普段まんまるを知らない方に、こういったところがあるということを知ってもらう機会にもしたい。最後には、取得した技術を使い、まんまるのボランティアとしてちょっとお手伝いをしてもらい、参加してくれる方を増やしたい。講師の込山さんは、ファイナンシャルプランナー・ライフプランナーとしてお金の知識を多くの方にひろめたいという想いもあるので、一つの広報として使ってもらいたい。
6. 当日スケジュール
 - ① センターの紹介
 - ② 【講座スタート】自己紹介・You はなぜここに
 - ③ まずは自分の名前を書いてみる。(before)
 - ④ ひらがなの練習
 - ⑤ 自分の好きな言葉を書いてみる
 - ⑥ フレームにいれる
 - ⑦ 自分の名前を書いてみる。(after)
7. 当日の様子



7. まとめ

この講座を通じて、初めてセンターを知ったという方が4名。また、7月のチラシ講座で初めて来てくれて、今回も参加してくれたという方も。その方を含めて、浅川の地域福祉ワーカーさんも9月末の発送サロンやボランティアサロンに興味を持ってくれた。土日にボランティアサロンをやってほしいという声も。講座の終わりに、興味のある講座などを案内すると今後に繋がっていく可能性も高いと感じた。それも立て続けにやるといいのかなと。(なので、負担の少ないボランティアサロンや、中身完全お任せサロンなどがいいと思う)。

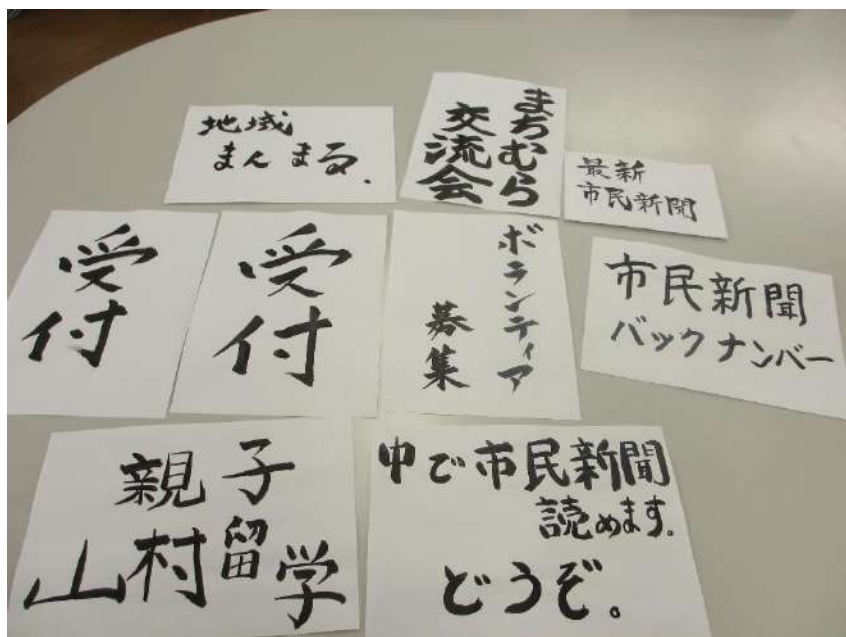
ただ、こうした講座はドタキャン(連絡なし)もでてくるので、準備が必要なものは事前に連絡していくことも必要かと。また、初参加組うち3名は謙遜して結局看板等を書いていかなかった。先生のお手本があればいいのにとも言っていた。ここらへんの工夫も必要だと思った。

これで終わりにしないようにしたい。

▼みんなで集合写真



▼参加してくれた方々に書いていただきました。



エコな想いをつないだ「手提げ袋」

「イベントで使う袋を、ビニールから紙に変えたい」NPO 法人食育体験教室・コラボの飯島美香代表から相談を受け、脱プラを掲げ積極的にSDGsに取り組む老舗紙卸店「手提屋」(長野市高田)が、ボランティア向け手提げ袋作りワークショップを開催しました。会場は、三本柳で子どもを中心にした居場所づくりをしている「にっこりひろば」。

11月14日、にっこりひろばの運営を手伝う5名のボランティアも参加しました。

飯島さんの想いと、「子ども食堂でも環境を考え紙袋を使いたい」というにっこりひろばの岡宮真理さん(さんぼんやなぎプロジェクト代表)の想いが合致し実現しました。

「こんな形の紙袋も素敵だねえ」と話しながら作る大人の目も真剣そのもの。学校から帰ってきた子どもたちも「かわいい～！わたしも作りたい」と途中から参加、特に手提屋の滝澤高一さんの穴あけのワザに「すごい！」と目をキラキラさせていました。



滝澤さんからは、「2050 年までに海に捨てられるプラスチックのごみの総重量は海に生息する魚の総重量を超えている」という話があり、参加者からは「子どもたちのためにも真剣に向き合わないと」といった声も。

と岡宮さん。飯島さんも「素敵な袋を考えてくれた手提屋さんと、にっこりひろばの皆さんがいたからこそできた」と話しました。

想いを共有したNPOや企業がつながったとき、SDGSの達成へ一歩近づいていくと感じました。ちなみに、作った手提げ袋は、11月24日にNPO 法人食育体験教室・コラボが開催した和食の日イベントで使われました♪



イベントタイトル：

「みんな、情報発信どうしてる？ ～広報の悩みをシェアしてセルフブランディングに挑戦しよう～」

開催日時：2019 年 11 月 2 日(土) 13:30~16:00

開催場所：もんぜんぷら座 3階 市民協働サポートセンター まんまる

？どんなイベント？

最近、自分の好きなことを活かした「スモールビジネス」を始める人が増えていますよね。

インターネットが普及して、誰でも情報を発信できるようになってきましたが、「うまく広報をするにはどうすればいいのだろう？」という悩みを持つ人も多いのではないのでしょうか。

そこで、子育てと仕事を楽しむママの会・“Mom’s Style”さんの企画・協力で、広報のための情報発信と“セルフブランディング”を考える交流会を開催しました！

イベントでは、参加者の皆さんが互いに悩みを打ち明けました…！

「どうやって広報すればよいか分からない」

「SNS で情報発信をしているけど、手間がかかる割に効果を実感できない...。」

などなど。

→ そのあと、広報についてのヒントや、「セルフブランディング」の基礎についていっしょに学びました。

参加

★ 参加者の感想 ★

「背中を押してもらえた。」

「発信の前に自分のしたいことを掘り下げる ことが大事だと感じました。」

といった声が寄せられました！

みんな、情報発信どうしてる？ ～ 広報の悩みをシェアして語り合おう～

セルフブランディング、団体アピール etc. みんなどうしてる？？

日 時：2019年 11月2日（土） 13：30～16：00

場 所：もんぜんぶら座3階 市民協働サポートセンター まんまる

対 象：NPO関係やフリーランスの方など、関心のある方どなたでも

参加費：無料

定 員：15名

内 容：広報の悩みをシェアし、
簡単なワークを通して
気づき合おう。

企画協力団体：

NPO 法人Mam's Style：

子育てと仕事を楽しむママの会として、子育て中のお母さんが中心になって活動しています。

子育て中のリフレッシュ講座や就労支援イベントを開催しています。

Social Design Center（ソーシャルデザインセンター）：

NPOを始め社会貢献活動に関わる広報のディレクター集団です。

ポータルサイト「ナガクル」の運営協力やSDGs普及にも取り組んでいます。



主催・申込み：市民協働サポートセンター まんまる

TEL：026 - 223 - 0051

メール：npo@nagano-shimin.net

※ Facebookのイベントページからお申込みいただけます。



わたしたちの美術館を考える

2021 年開館に向けて新しい信濃美術館を考えるワークショップが、11 月 13 日子ども広場じゃん・けん・ぽんで開かれ、8 組の乳幼児親子が集まりました。

今回はまんまる×信濃美術館×県信濃美術館整備室の協働企画！

参加されたみなさん、お菓子やりんごを食べながら終始和やかな雰囲気話していました。

最初に「美術館ってどんなイメージ？」と聞くと、「大きい音や声は出せない」「子どもは連れていきにくい」「高い」といったちょっとマイナス意見が多いことに、学芸員の青山さんも「残念～！！」

もちろんマイナスばかりでなく、「ショップで珍しくて素敵なグッズを買える」「新しい発見が必ずある」といったところも美術館の魅力としてたくさん上がりました。

後半は、「理想の美術館」について意見の出し合い。お母さんたちが参加していることもあり、子どもと一緒に美術を楽しみたいという想いを感じる意見も多く出されました。

今回の企画を終えて、担当からも「とてもいい意見がたくさん。参考になりました。またやりたい」

今後は、学生さんなどからも意見を聞きたいと企画していこうと考えています。またお知らせしますので、楽しみにお待ちくださいね☆



▲託児スペースはのびのびと

▼和気あいあいと意見を出し合う参加者たち



NPOステップアップ講座「イベント企画のいろは」

×イベンターズミーティング

《引きつける”イベント“って、どんなん？》

担当：藤澤

日 時 12月13日（金） 18：00～20：30

場 所 もんぜんぶら座 304 会議室

講 師 河合宗寛さん

（ファシリテーション・ラボ信州代表）

参加費 300 円

定 員 20 人



河合さん自己紹介（18：12～18：25）

1. イベンターズミーティング（18：25～20：20）

（1）アイスブレイク「あなたにとってのイベントは」

2人1組で紹介し合った（2巡）後、1人ずつ自己紹介

（2）テーブル（3人×4テーブル）ごとにミーティング

①「イベントにまつわることであなたを悩ませているのはどんなことですか」

～メンバーチェンジ＋休憩 5分～

意見：会場さがし、広報、集客、資金、企画内容、リーダー不足、など

②「こんな質問をすると役立つ話が聞けそう！それはどんな質問？」

③「こんな質問をすると役立つ話を引き出せそう！それはどんな質問？」

④「イベントに関わる悩みで人に教えてほしいこと」を各自書いて貼り付ける

それに対し、参加者が回答できそうなことを提案する

教えてほしいこと

2. イベントデザインに関するレクチャー

（20：20～21：00）

参加者：12人（参加費@300円）

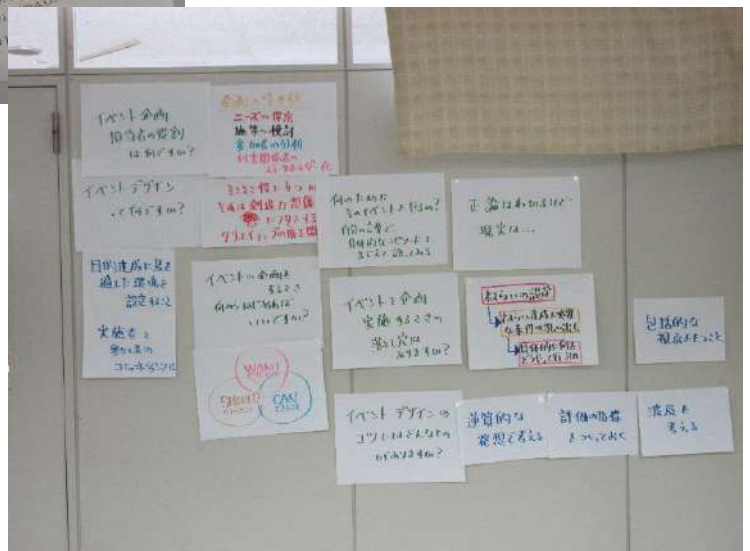
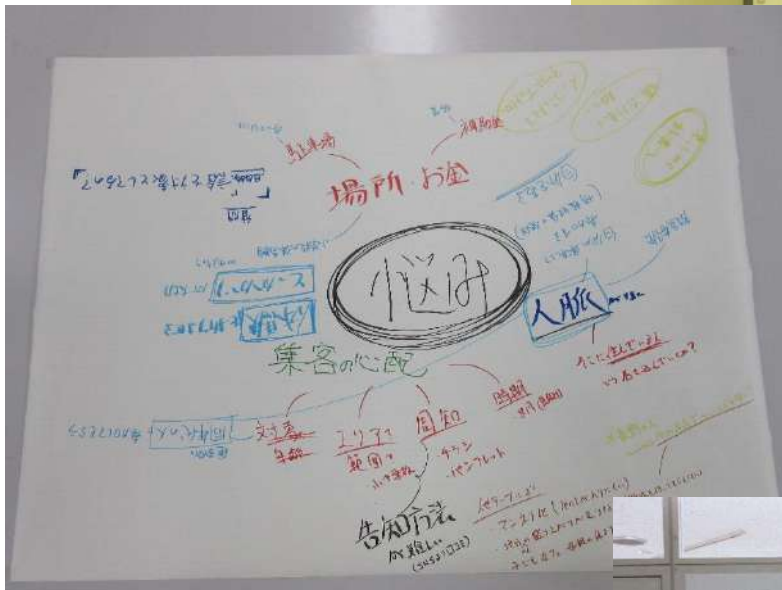
講 師：1人（謝金・交通費 30,000円）

スタッフ：藤澤、阿部

広 報：チラシ配布・SNS・HP

一斉メール（住自協、NPO、任意団体、協働ねっと理事）





介護している人の 声が聞きたい！

地域が育つ、出会いづくり



参加者 44 人!!

in 大豆島
開催しました!!



導入

日時：2020 年 2 月 7 日(金) 13:30~16:00

場所：大豆島総合市民センター多目的ホール



企画協力者は大豆島地区地域福祉ワーカー平野さん
日頃の地区での活動に悩みを抱えていました。
介護をしている人たちはどんな場をもとめているのだろう？
地域で何ができるのだろう？
包括支援センターや介護事業所との連携は？などなど・・・。
とにかく、介護している人の気持ちを聞いてみたい!と地域ま
じる in 大豆島は始まりました

各地区で開催されている「介護者のつどい」はそもそもどうし
て始まったのか？ 市社会福祉協議会がそこに助成している
のはなんで？ 社協の歴史をひも解いてみました。
介護保険制度がなかった時代に始まった取り組みを地域に広
めたのがそもそもの始まり。そのころと今と事情は違うけれ
ど・・・。

社協地域福祉課足立係長から



実は社協よりも早くから介護している人の「分かち
合い」の会を開催している認知症の人と家族の会。
認知症の人との接し方を始め、介護している人にと
って何が苦しいのか、何が必要なのか？事例をもと
に考えてみましょう。
同会の伝田景光さんは、自身も NPO 法人のぞみが運
営する介護施設で日々、介護者と認知症の人と接し
ている立場からお話してくれました。



交流

1 グループ 6 人以下で、小さく輪になり、膝を突き合わせて、ぐっ
と近い距離で、介護当事者や経験者から話を聞きます。
辛いこと、苦しいことばかりではなく、工夫したことや、楽しい思
い出もたくさん話していただきました。
中には時間が足りない・・・、涙なしでは話せず、聴けない・・・、
というグループもありました。



全体共有

最後は参加した皆さん全員で感想や意見を共有しました。
改めて感じたこと、初めて知ったこと、共感したこと、もっと話したかった、聴きたかったことなどたくさん出されました
出されたフセンをグルーピング、みなさんの言葉を書きとっていくのは大豆島地区たすけあいコーディネーターの田中さん。



フセンの言葉から・・・

- ◎ 一人ひとりをたいせつにすることって大事ですね
- ◎ 名前で呼ぶことで自分の気持ちに整理をつける
- ◎ 悩みを聞いてくれる人がいることで救われる
- ◎ 今日はみなさんが一生懸命聴いてくれてありがたかった
- ◎ 専門家のアドバイスが欲しいときもあるけど、ただ聞いてほしい時があるよね
- ◎ ケアマネとして、家族の気持ちに寄り添う姿勢が大事だと感じました
- ◎ 家族会・仲間大事だなあ
- ◎ きっと自分のことをわかってくれる人がある、話せる人がいるだけで気持ちが楽になる
- ◎ ある意味開き直って自分の時間を持つことは大事だと思う
- ◎ 介護するうえでのリフレッシュは大切
- ◎ 児童センターの仕事と介護の両立で精神的なバランスがとれた
- ◎ 介護される人の方が本当は辛い。「ありがとう」や素敵な笑顔がいいのかな
- ◎ 余裕がないのが一番悪い。一人で頑張るのが諸悪の根源かな
- ◎ 家族や近所の理解、ここそのやさしさ、心を軽くしてくれる行動があることで、乗り越える力にできると思った
- ◎ 嫁と姑今のうちに仲良くさせよう
- ◎ 施設に入所しても家族とのつながりを忘れないように会いに来て
- ◎ 80-50 家族です。要介護 5 の親を介護しながら夜仕事しています。仕事と介護が両立できる社会になってほしい
- ◎ 介護をしていると世間が狭くなって、いっぱいいっぱいになってしまう!!
- ◎ 介護している方々のお子さんが介護職につく方が多い。小さいころからそういう姿をみていて自然と寄り添うことができるんだなあ。
- ◎ 百人いれば百通り、これでよいというのかないのかも？
- ◎ 介護する方もされる方も辛いことはあるけれど、「あの時あの人の、あの一言で頑張れた」そんなことをを聞かせてもらった。人生はそんないいこと悪いことの積み重ねで出来上がっているのだと思った



感じたことは人ぞそれだと思いますが、今後、地域で、家庭で・・・、介護している人に思いを寄せ、できることをまずはやってみようという気持ちになってもらえたら。
今まで勝手に、一方的に介護している人に抱いていたイメージが変わったのは企画した私たち自身だったかもしれません。



まちむら交流会

「１００の大岡 秋の森 大ぼうけん 親子自然体験」

主催：Oooka 森の学び舎

共催：市民協働サポートセンターまんまる

大岡住民自治協議会

日 時：１１月９日（土）

場 所：大岡聖山高原チャペル たららの森

参加者：親子１７組５５人

（０歳～１２歳の子どもたち２９人、保護者２６人）

大岡スタッフ１６人、まんまるスタッフ３人

長野大学生ボランティア２人、総勢７６人



秋晴れの大岡たららの森に

大勢の子どもたちが集まり、

親子みんなで楽しい時間を過ごしました。

１． イベントの目的 「市街地に住む親子と大岡を知り地域の方々と交流する」

- ・大岡の豊かな自然の中、五感で喜びを感じる体験をする。

森の中で深呼吸して、温度、色、感触、香り、味、音、を全身で
感じて１００の発見をしよう！

- ・親子で同じ目線に立ち、自然の力、魅力を見つけ、楽しさ面白さを共有する。
- ・大岡の地域の方との交流を通じて、大岡という地域を知ってもらう。

２． 当日のスケジュールと内容

１０：００ 集合 はじめの会

- ・学生ボランティアによるアイスブレイクを交えて参加者自己紹介。



10 : 30 秋の森でたからもの探し

- ・ たららの森で落ち葉を踏みしめながら、どんぐり、松ぼっくりなどの“たからもの”を拾ったりブランコやアスレチックで遊びました。



11 : 30 竹細工

- ・ 大岡の竹林から伐採した竹をのこぎりで切って「竹コップ」を作りました。

竹を保護者がしっかり押さえて、慣れない手つき
の子どもたちが一生懸命のこぎりを引きました。
切り口を紙やすりで削って竹コップの完成です。
さっそく水を汲んでゴックン。



12 : 00 お昼ごはん



- ・ 大岡のお母さん5人が、山で採れた「白しめじ」と「じこぼう」が入ったきのこ汁、地元産の野菜の漬物バイキング、たくさんのおにぎりでおなかいっぱい。



13 : 00 お土産づくり

- ・ 森で集めた“たからもの”を思い思いに木のメダルに貼り付けて自分メダルを親子で作りました。赤や紫の木の实をつけて色彩豊かなメダル、枝を立てて生け花風のメダルなど子ども以上にお父さんお母さんが熱中している光景が印象的でした。また、竹を組み合わせた竹笛も人気でやさしい笛の音が響いていました。



14 : 00 おやつ作りと落ち葉プール

- ・ 裏庭では、新聞紙とアルミ箔で包んだサツマイモを落ち葉を燃やした焚き火の中に放り投げてやきいも作りをしました。煙が目にしみて顔をしかめたりしながら焚き火を囲みました。
- ・ 焼き芋が焼けるまでは、大きなシートに載せたたくさんの“落ち葉プール”ではしゃぎました。たくさんの落ち葉を、掴んでは投げあげて、そのうちに落ち葉を掛け合ったり、みんなきゃっきゃいって楽しそうでした。



14 : 30 おわりの会

- ・ 参加した子どもたちに今日の印象をインタビューしました。
子どもたちのさまざまな「楽しかった」が聞けました。
- ・ 最後に、ほくほくのやきいもを食べて山の1日が終わりました。



3. 参加した保護者の声

◇普段ほとんど山歩きをしないのでいい体験でした。またすばらしい景色にびっくりしました。

◇孫を連れてきました。信州新町から来ましたがここは初めてです。いいところがあるのですね。

◇来るときはちょっと遠いと感じましたが、みなさんのお蔭で楽しく過ごしました。また来たいです。

◇子どもが通っている保育園でチラシを見て参加しました。初めてグルーガンを使ってメダルづくりしました。子どもも喜んでいました。

◇以前大岡に住んでいたので遊びに来ました。子どもも大岡が好きだし人もいいので私もここが好きですが、子どもの通学などを考えると複雑ですね。

4. まとめ

- ・ Oooka 森の学び舎の子育てサークル班が春先から準備を進めて、天気にも恵まれ参加者に喜んでもらった1日になりました。
- ・ 子どもたちはそれぞれの“初めて体験”にはしゃいでいましたが、保護者の皆さんも同じように楽しんでいただけたのが印象的でした。やはり、親が動かないと子どもには機会が与えられません。今回の交流で大人の大岡ファンが増えたのではないのでしょうか。
- ・ 大岡地区では、保育園の休園や小学校の生徒数減少に歯止めをかけるべく山村留学や遠足誘致などを実施しています。大岡への移住誘致は容易ではありませんが、まず訪れて、見て感じて、大岡を知ってもらうことです。今回のイベントで、その目的は達成できたし、今後も地道に繰り返していくことが大切だと感じました。



まちむら交流会

「100の大岡 冬の森 大冒険 親子自然体験」

主催：Oooka 森の学び舎

協力：市民協働サポートセンターまんまる

日 程 2月1日(土)

場 所 山村留学大岡ひじり学園

参加者 親子14組 48人

スタッフ

Oooka 森の学び舎 17人

まんまる 1人

総勢 66人



大岡ひじり学園の前で

1. イベントのテーマ

- ◇大岡の豊かな自然の中で子どもの気づきを育む 100 の体験をしよう！
- ◇森の中を探検しながら、季節を生きる山のすばらしさを五感で感じ、美しい・心地いい、など心情や感情を表す「い」の付く形容詞をたくさん体験しよう。

2. 1日の流れ

10:00 全員集合してはじめての会（大広間）

- ・Oooka 森の学び舎スタッフと参加者が自己紹介。1日の予定をご案内しました。
- ・アイスクリームづくりの準備からスタート。
ビニール袋に皮をむいたバナナを1本ずつ入れて手でぐちゃぐちゃに、そこへ砂糖とヨーグルトを入れて更にぐちゃぐちゃに、これで準備完了。



- ・学園の屋根から落ちて積もった雪を集めました。
その中にアイスクリームの元を埋めて目印を立てました。



10:30 冬の森 大冒険に出発！

- ・みんなが外に出て、僅かに残っている雪を 掘って準備したアイスの袋に名前を書いて埋めました。どんなアイスができるか楽しみにしながら、お山へ出発。
近くの山の中で、大岡の山にある竹を切った竹コップで湧き水を飲みました。
とても透き通ったきれいな水に「冷たくておいしい」の声が聞こえました。
- ・ガイド役の待井さんから、1本の杉の幹がケバ立っているのはムササビが登った時の爪のあととの説明にお父さんもびっくり！まさに“自然の爪痕”。
- ・午後のクラフトワークのため“山の宝物”を探しました。ドングリや松ぼっくり、小枝や山に落ちているいろんなグッズを集めました。



湧き水を竹コップですくって



山へ繰り出す参加者たち

11:40 やまのお昼

・大岡のお母さんたちが朝から作ってくれた「すいとん鍋」。参加者の中には初めてすいとんを食べた人もいたのでは？すいとんの正体がわかったでしょうか？もしかしたらお母さんも作ったことがなかったりして！

きのこご飯に漬物バイキング、りんごのデザートもおいしかった！



すいとんに漬物バイキング



お昼タイム

12:40 クラフトワーク

・配られた板盤にみなさんが集めてきた“山の宝物”を思い思いに貼り付けて「お宅の掲示板」を作りました。ペン立てにしようと竹の筒を貼り付けるも直ぐに剥がれてしまい初めてのグルーガンに悪戦苦闘のお父さんも。

子どもたちとの共同作業に真剣な表情と笑い声が響きました。

作業に飽きちゃった子どもたちは、あとは親



に任せて、いつの間にか仲良しになったお友達と座布団取りゲームに夢中でした。





・待井さんが作ってくれた笛が大好評、ちょっとふくれっ面の子が、笛が鳴った瞬間に満面の笑みでした。



・クラフトワークのあとは埋めておいたアイスクリームを掘り返してきてみんなでいただきました。

お味はどうだったでしょうか？ ちゃんとアイスになってたかな？



13：40 終わりの会

・子どもたちから家族と作った掲示板の作品紹介と感想を発表しました。

・続いてみんなでお歌とお遊戯。まるで大岡の保育園にいます。



・ あっという間に時間が過ぎて名残惜しいですが、
最後は青木さんから「おわりの宣言」があり楽しい1
日が無事終わりました。
また、来てくださいね。



3. 参加者の感想

- ◇仕事では来たことがあったけど家族で初めて来ました。山に入って湧き水を飲んだのは気持ちが良かった。
- ◇初めて来たけど長野からそれほど遠くはなかった。道案内があって心強かった。
- ◇秋の体験が良かったので、参加した。皆さんのおかげでまた親子で楽しめました。
- ◇関西から転勤で長野に来た。知り合いもなく行く場所も分からなかったのでもいい機会
で新鮮な体験でした。できれば雪遊びしたかった。

4. まとめ

- ・ 今回も、皆さん満足して帰って行きました。それぞれが忘れられない思い出になると思います。
- ・ 秋は内容が少し過密でしたが、反省が生かされ適度な時間配分でゆったりできたのではないのでしょうか。それでも「もっと山歩きたかった」との声があるほど自然体験に飢えている？ 街にいとそれほど機会がないということです。
- ・ 想定外の雪不足でスタッフも慌てたことと思いますが、工夫を凝らしてスケジュールを組み立てトラブルもなく終わりました。皆さんが綿密に準備を重ねた結果だと思います。
- ・ 募集開始から僅かな間で満員御礼となったのは素晴らしいこと。様々な理由があると思いますが、次につながるステップになります。秋と冬に参加した約30組はまた新しい家族を誘ってくれます。地味ですが、口コミや口づて効果は強いものです。
- ・ 参加者のほとんどが大岡スタッフのおもてなし熱意を十分に感じ取って帰りました。

今後、参加者だけでなく
一人でも多くの地元住民
がスタッフに加わると
もっと素晴らしい。

以上

